



国立大学法人  
豊橋技術科学大学



# 同窓会報

豊橋技術科学大学『公式Facebookページ』のお知らせ

**Facebook**  
はじめました。

<http://www.facebook.com/toyohashi.tech>

BIGな、そして些細な学内の日常をお伝えします。

多くの仲間と一緒に  
技術を究め、技術を創る

**Toyohashi Tech** 国立大学法人豊橋技術科学大学  
〒424-8603 豊橋市東山町1-1-1

いいね! ボタンを押してください

お問い合わせ先：総務課広報係 (TEL:0532-44-6506)

Twitterもはじめました (\*\_\*  
@Toyohashi\_Tech

高橋正実さんデザイン 大学オリジナルエコバッグ2012完成!



## 国立大学の「ミッションの再定義」

豊橋技術科学大学・学長 榊 佳之



田中真紀子前文部科学大臣が3つの新設大学の設置認可に突然の「待った」をかけて混乱を引き起こしたことはまだ記憶に新しい。この発言は大学の果たすべき役割を改めて社会に問うた点で評価されているが、ここでは、新設大学だけでなく本学を含む既設の大学に対しても大きな改革の波が押し寄せようとしていることを同窓生の皆様にお知らせしたいと思っている。

大学のあり方については以前から関係者の間で議論されてきたが、そこには2つの視点があった。一つは将来の社会を担う人材を育成すべき大学が激しく変化する社会の期待に十分に答えられていないのではないかという「大学の質」の観点である。もうひとつは少子高齢化、苦しい国家財政の中で大学への財政負担の軽減、特に負担の大きい国立大学を整理統合してもよいのではないかという「大学の数量」の観点である。前者は日本の経済的な停滞や国際社会における地位の低下などを背景に主に経済界から危機感を持って発せられ、経団連なども大学教育の在り方に対する提言を行っている。一方後者は昨今の財政事情を背景に財務省を中心に発せられている。日本の高等教育への公的支出の割合（GDP比）がOECD 25カ国中で最低であるにもかかわらず、このような意見は根強い。例えば、財務省の資料には愛知県に本学、名古屋大学工学部、名古屋工業大学と合わせて3つも工学部を置く必要があるのかといった記述がある。また今では多くの工学部が高専卒業生を受け入れており、技術科学大学は今後も必要かと言う意見もある。

教育、人材育成が社会の将来のための最重要課題

の一つである点では誰も異論はないものの、社会から大学、大学人がそれに十分に答える働きをしているのかが問われているのである。このような状況の下、先の野田内閣は国家戦略会議の中で教育改革を最重要課題の一つに取り上げ、それを踏まえて当時の平野文部科学大臣が昨年6月に「社会の期待に応える教育改革の推進」を発表した。その内容の大半は大学の改革であり、これを受けて文部科学省は直ちに「大学改革実行プラン」を発表して動き出している。その中でも目を引くのが「国立大学改革～ロードマップ」、その中でも「ミッションの再定義」、即ち、各国立大学の学部ごとに目指すものや強み、特色を明確にして社会の中で果たすべき役割を「再定義」し、社会に公表しようとするものである。どの国立大学も平成22年4月開始の第2期中期目標・計画において各々のミッションを明らかにして動き出したはずであるが、それを越えて文部科学省として国立大学の存在意義を社会にアピールしなければならないのは（国立）大学に対する社会の風当たりがそれだけと強いと言うことである。

本学は設立以来、主に高専生を受け入れ、高度で創造的、指導的な技術者に育てること、産業へ繋がる先端技術の開発を使命としてしっかりした実績を示してきたと自負しているが、今回の「ミッションの再定義」には改めて真摯に向き合わなければならない。文部科学省の国立大学改革のプランの中に複数大学がまとまって1法人を形成する制度が例示されるなど、今回の「国立大学改革」が平成16年の国立大学の法人化に続く大きな変化、即ち大学、学部の統廃合、選別・序列化などにつながる可能性が

あるからである。工学系，医学系，教育系の学部や単科大学が最初の「再定義」の対象となり，本学は既に昨年の10月末に本学の強み，特色を文部科学省に提出した。これから意見交換を経て本学のミッションが「再定義」されるスケジュールとなっているが，その後何が起こるのかは定かでない。私共執行部は本学が積み上げてきた実績，良さ，強み，気風を損なうことなく，社会の要請に応える大学と

して今後の動きに対応するつもりであるが，同窓生の皆様方にも本学の存在を大きく揺さぶるかもしれない動きが始まっていることを知っていただき，それぞれのお立場で応援をして頂きたいと願っている。

尚，ご参考までに本学が文部科学省に出した資料の中の，強み・特色に関する部分の要点を別表にまとめたのでご覧いただきたい。

#### 別表：豊橋技術科学大学の強みや特色，社会的な役割

##### 【総括】

本学は，天然資源に乏しい日本の繁栄には高度な技術力とそれを担う優れた人材が不可欠であるとの認識を堅持しつつ，我が国の基幹産業を支える先端技術と，持続的発展社会に求められる先導的技術を2本の柱として教育，研究を展開し，それらを通して社会に貢献することを使命とする。

##### 【① 教育】

早い段階から基礎技術教育を受けた高等専門学校卒業生を主に受け入れ，その特質を生かした豊かな人間性と国際的視野を持つ実践的創造的かつ指導的技術者を養成する。高等専門学校教育との連続性を重視し，大学院教育に重点を置き，レベルの高い基礎科学・教養教育とその上に立った実践的専門・技術教育を相互に進める「らせん型」教育を学部・大学院一貫で実施する。

##### 【② 研究】

本学の特色ある技術科学研究と医学，農学，人文社会学など異分野との連携・融合を図るため，世界に類を見ないLSI工場を有するエレクトロニクス先端融合研究所等の研究活動を通して先端的融合研究を推進するとともに，日本の基幹産業を支える実践的技術を重視した基盤的研究を推進する。

##### 【③ 国際展開】

インドネシア高等教育開発計画（HEDS）プロジェクトで中心的役割を果たし，その実績をもとに国内唯一の工学教育国際協力研究センター（ICCEED）を設置しており，本学が創設以来築き上げてきた国際交流実績の高い東南アジア諸国（マレーシア，インドネシア，ベトナムなど）を主なターゲットとして，留学生の受け入れ，研修，日本人学生の海外研修・実務訓練，国際共同研究・人材交流などの国際交流に関する連携体制を強化し，国際戦略本部のもとで，世界に開かれた大学への展開を推進する。

##### 【④ 社会貢献（産学連携）】

本学創設以来，他大学の先陣を切って産学連携を大学の使命の一つとして位置づけ，教員の1/3以上を産業界から迎え入れ，産業界との連携を推進しており，産学連携推進本部のもとで産業界との連携を一層強化し，実践的な技術開発共同研究や技術移転を推進する。

##### 【④ 社会貢献（社会連携）】

社会連携推進本部のもとに，環境・エネルギー，高齢化社会，防災，次世代農業等地域が抱える課題に対し全学の「知」を結集し，それぞれの課題に対応するリサーチセンターを中心として地域と一体となって解決する。また，三遠南信地域（愛知県・三河，静岡県・遠州，長野県・南信州の県境を跨いだ地域の呼称）の自治体，学校，企業等と連携し，人材育成・人材開発を積極的に進め，地域社会の活性化につながる主体的な取り組みを推進する。

##### 【⑤ 高専連携】

高等専門学校教育と本学の教育の円滑な接続により，効果的な人材養成を行うため，高専連携室を設置し，教員の人事交流，教育研究プロジェクト等高等専門学校との教育研究の連携を推進する。

# 1 機械工学系

## 「頑張れ機械技術者」

機械工学系 系長 北村 健三

旧1系(エネルギー, 機械システム工学), 旧2系(生産システム工学)卒業・修了生の皆さん, お元気ですか。毎日お仕事に, また家庭では良き父(母)としてご活躍のことと思います。寺嶋一彦初代系長の後をついで, 平成24年4月から新1系(機械工学系)の2代目系長を務めることになりました。よろしく申し上げます。昭和54年4月に技科大に助手として赴任して以来, 33年間技科大に在職していますので, 私のことは旧1系はもとより, 旧2系の多くの卒業生方々も良くご存じかと思えます。さて, 平成22年4月に旧1系と2系が合併し, 新1系(機械工学系)として学科再編されました。この再編により, 機械工学系は, 平成24年10月現在, 専任教員数41名, 学部学生316名(旧機械, 生産B4学生含む), 大学院生270名を擁する本学で最も大きな学科となりました。再編当初は旧系間での学科運営の仕方や教育カリキュラムなどが異なり, 果たしてうまくやって行けるのか, 多少不安が有りました。しかし, 再編から2年半が過ぎ, 系会議・教授会, 各種の系内委員会などの会合あるいはビアパーティ, 忘年会などの懇親の場を通じて, 教職員同士がお互いの考え方, 人柄などを理解するにつれ, 再編に係る様々な問題も次第に解消されつつあります。来年平成25年3月には, 現在B4に在籍している旧機械システム, 生産システムの学生が卒業し, 4年を掛けた学科再編がほぼ完了します。今後は社会情勢の変化や要請に応じた教育カリキュラムや研究体制の見直し, 「草食系」, 「内向き指向」と称される学生を, どのように「野性的」で「グローバルな視野」をもった技術者に育てていくかが, 新系の大きな課題となると考えています。

さて, 昨年の欧州通貨危機, また今夏の日中情勢の変化に伴って, 我国が長年得意としてきた自動車, 電気・

電子機器などの輸出に強いブレイキが掛かっています。技術がグローバル化した現在では, 他国が真似できない技術や新しい発想に基づく製品を生み出していく他に, 我国の製造業が生



き残る道は有りません。製品開発力とそれを支える技術の優劣が, 企業の存続や国の繁栄により直接的に影響する時代といえます。それらの製品開発やものづくりを根底から支えているのは, 実は皆さん方「機械技術者」であると考えています。私の専門とする熱工学の分野を例にとりますと, 我国の電力の90%以上は, ガスタービン, 蒸気タービンなどをはじめとする熱機関により生み出されています。私が30数年前の学生時代習った記憶では, これらの熱機関の効率は最高でも40数%程度でした。しかし, 現在最新鋭のLNG 焚きガス・蒸気タービンコンバインド発電では60%近い効率が実現されています。熱機関の効率を十数%向上させるのにどれほどの苦闘が必要か, また, この十数%の効率向上が我国の電力事情の改善にどれほど大きな貢献をしているか簡単な計算を試みればすぐに分かります。しかし, そのような「機械技術者」の努力は, ほとんどマスコミ等で取り上げられることはなく, 本質的に補助電源の役割しか果たせない太陽光発電が世間ではもてはやされています。上の熱機関の例に限らず, 恐らく多くの機械技術の分野でも事情は同じかと思えます。我国を支える核心的な技術, 他国では決してまねできない技術を依然として保持している分野は何かと問われれば, ためらいなく「機械技術分野」が挙げられるでしょう。どうか卒業生の皆さん, 自信と誇りを持って仕事に励んで下さい。

# 学内近況報告

竹市 嘉紀, 三宅 哲夫

卒業生、修了生の皆様におかれましては、ご健勝のことと存じます。2010年4月に学内再編がスタートし、旧機械システム工学系と旧生産システム工学系が一緒になった「機械工学系」としてのカリキュラムが学部3年生まで進行しました。現在の学部4年生がそれぞれの旧系としての最後の卒業生となり、彼らの卒業をもちまして再編が完了します。新カリキュラムでは学部3年生が130名の大人数となり、講義などは2クラスに分けて並行に行っております。色々なことが初めてのため教員一同試行錯誤を続けておりますが、卒業生の方々に続き存分に活躍できる人材を送り出せるよう、教育研究活動に邁進しております。

教員は既に同じ機械工学系として活動しておりますが、卒業生の皆様方におなじみの旧系ごとで教員の近況をお伝えいたしますと、旧機械システム工学系では、2012年4月に感本広文先生が静岡理科大学に、同じく4月に伊藤高啓先生が名古屋大学に、そして9月には樋口理宏先生が金沢大学にそれぞれご栄転なさいました。また、4月には柳田秀記先生が教授にご昇任なさいました。旧生産システム工学系では、2011年12月に野田義之先生が山梨大学にご栄転なさい、2012年7月に田崎亮佑先生が新たに着任なさいました。また、4月には安部洋平先生が准教授に、前野智美先生が助教に、10月には川島貴弘先生が准教授に昇任なさいました。技術専門職員（技官）では、旧両系ともに長年にわたり多くの学生・教員が実験実習工場でお世話になっていた徳増学様と小楠和彦様が2012年3月にご定年退職されました。また、OSG 寄付講座の榎田正美先生、堀内宰先生、村上良彦先生、野村光由先生らが、5年間にわたる産学連携の研究活動を終了されました。

来年度は、新系としては初めての日本技術者教育認定機構（JABEE）の審査を受けることになっており、教職員一同、受審に向けて準備を本格化しつつあります。学内再編により新たに生まれた「機械工学系」の教育プログラムの改善に対する取り組みが評価されることと期待いたしております。

最後に、2011年度末の送別会で撮影した写真をスタッフ一同からのご挨拶代わりにし、皆様におかれましては今後ともお元気でご活躍されることをお祈り申し上げます。近況報告とさせていただきます。

## [機械・システムデザインコース]

教授：足立忠晴, 河村庄造, 柴田隆行,  
森 謙一郎, 安田好文 (兼務)  
准教授：安部洋平, 川島貴弘, 竹市嘉紀  
助教：永井萌土, 前野智美

## [材料・生産加工コース]

教授：伊崎昌伸, 梅本 実, 戸田裕之,  
福本昌宏  
准教授：戸高義一, 安井利明, 小林正和,  
横山誠二  
講師：徐道源  
助教：笹野順司, 山田基宏

## [システム制御・ロボットコース]

教授：清水良明, 章 忠, 寺嶋一彦,  
鈴木新一 (兼務)  
准教授：内山直樹, 三宅哲夫, 三好孝典,  
Batres-Prieto Rafael  
助教：今村 孝, 阪口龍彦, 佐野滋則,  
田崎良佑

## [環境・エネルギーコース]

教授：飯田明由, 北村健三, 野田 進,  
柳田秀記  
准教授：鈴木孝司, 関下信正, 中川勝文  
助教：光石暁彦, 横山博史

(平成 24 年 11 月現在)





## 着任のごあいさつ

機械工学系 助教 田崎 良佑

7月1日付けで、機械工学系の助教に着任した田崎良佑です。出身は栃木県宇都宮市です。小山高専機械工学科を卒業し、京都工芸繊維大学機械システム工学課程に編入学して、その後に本学の修士課程生産システム工学専攻、博士課程電子・情報工学専攻に進学しました。昨年の春に博士課程を修了し、この度の着任までシステム制御研究室の産学官連携研究員として研究を行ってまいりました。京都から豊橋に移り住んで既に7年目になります。海も山も近く、食べ物も美味しく、したがって酒も旨い、とても暮らしやすいところで、この食生活から充実して毎日のエネルギーを得ています。

私は修士・博士課程において、主に casting プロセスの自動制御、液体の流動・圧力制御系設計に関する研究に従事していました。現在では博士研究の内容に加えて、サービス・医療支援ロボットの研究を新たに進め

ています。一方で MOT: 技術経営コースを修了しており、このとき、国内共同研究先・ヨーロッパ企業での研修経験を通じて「理系人材だからこそ、視野を広げて社会をよく観察して将来社会を予見しながら学び・研究できる」ということを実感しました。このことを学生に伝えられるように教育にも携わりたいと思います。社会貢献に優れた研究成果・技術づくりに専念し、学生にも刺激を与える存在になるよう努力する所存です。

微力ではございますが、本学の教育・研究の発展に寄与できればと考えております。卒業生・修了生の皆さま、どうぞよろしくお願いたします。



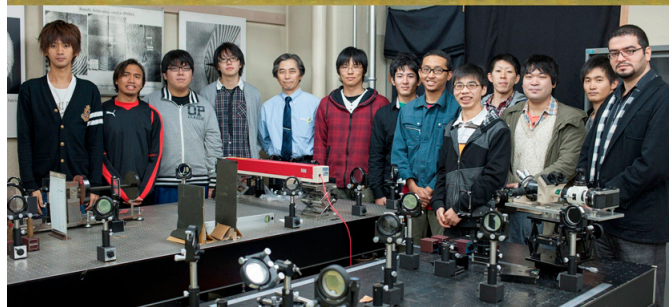
## 研究室だより

### ロボティクス・メカトロニクス研究室の近況報告

機械工学専攻 修士2年 佐藤 岳博 本田 雄大

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、それぞれの職場でご健勝のことと存じます。平成22年の学内再編と高木章二教授のご退官に伴い、機械工学系、システム制御・ロボットコースの一員になると共に、旧鈴木新一研と旧高木研が統合し、研究室名を「ロボティクス・メカトロニクス研究室」に変更いたしました。現在は、2つのグループに分かれて研究を行っております。

鈴木新一教授の下では、学生13名（博士課程1名、修士課程8名、学部4名）で、高速力学・光計測に関する研究を行っております。現在は主に、①高速破壊におけるき裂分岐の力学的機構解明のための実験的研究、②高速度ホログラフィ顕微鏡法による高速現象の光学的測定、の2つの高速破壊力学や光計測法に関



するテーマに取り組んでおります。

内山直樹准教授・佐野滋則助教の下では、学生 21 名（博士課程 1 名、修士課程 15 名、学部 5 名）に加えて本年度の 10 月からはベトナム・インドネシアからの留学生 4 名を新たに迎え、国際色豊かなメンバーで、システム制御に関する研究に励んでおります。現在は主に、①飛行ロボット、車両ロボット、アームロボット、人間操作型ロボット、各種センサを利用したロボットシステムの開発と計測・制御法、②多軸工作機械、クレーン、エンジン等の機械駆動系を対象とした高速性・運動精度・省エネルギー化・制振性を考慮した制御法、③セルフセンシングアクチュエータの実現を目標とする高分子アクチュエータを用いた機構と制御法、の 3 つのシステムや用途を対象としたテーマに取り組んでお

ります。

これらの研究成果は、国内外の学会等へ参加することで、精力的に成果発表を行なっております。また、高校生を対象とした体験実習、子供のための科学展への出展なども積極的に行なっており、青少年の科学技術に対する興味・関心の向上へのきっかけづくりにも励んでいます。

卒業生・修了生の皆様におかれましては、大変お忙しいと存じますが、豊橋にお越しになる機会がございましたら、是非研究室にお立ち寄りください。研究室一同、お待ちしております。

最後になりましたが、皆様のご発展、ご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

## 薄膜材料研究室の近況報告

材料・生産加工コース 助教 笹野 順 司

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。当研究室は平成 22 年度の再編に伴い、生産システム工学系 製錬工学研究室から機械工学系 薄膜材料研究室に生まれ変わりました。現在の薄膜材料研究室は、伊崎昌伸教授、横山誠二准教授、笹野順司助教の教員 3 名と伴野祥子秘書、および、26 名の学生（修士 19 名、学部 7 名）で構成されています。

当研究室では、“地球にやさしい材料と生産プロセスの開発”を目的として、ソフト溶液プロセスを利用した各種薄膜機能材料の製膜、次世代太陽電池材料として期待される酸化半導体、有機半導体ならびにそれらを複合化した有機・無機ハイブリッド太陽電池の形成、鉄鋼副産物のリサイクルなどに関する様々な研究を行なっています。

特に次世代太陽電池の研究に関しては、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の革新的太陽光発電技術研究開発「高度秩序構造を有する薄膜多接合太陽電池の研究開発（酸化ワイドバンドギャップ）」（2008-2014）、太陽光発電システム次世代高性能化技術「フレキシブル CIGS 太陽電池モジュールの高効率化技術」（2010-2015）、ならびに、科学技術振興機構—戦略的創造研究推進事業（JST-CREST）太陽光を利用した独創的クリーンエネルギー生成技術の創出（有機太陽電池のバンドギャップサイエンス）（2009-2014）など

の様々な大型共同研究事業に参画しており、活発な研究活動を展開しています。

加えて、日仏交流促進事業（JSPS-SAKURA）「Electrochemical Construction of High Quality and Nano-Structured Oxide Photovoltaic Devices」（2011-2012）の下で、フランス（CNRS, ENSCP）の Thierry Pauporte 先生と共同研究を進めており、教員ならびに学生が互いの研究室を訪問・滞在し、国際交流にも力を入れています。

これらの研究で得られた成果は、国内の学会にとどまらず、学生自身が国際会議に参加し積極的に発表を行なっております。



研究活動の他、課外活動にも力を入れており、今年度の系のソフトボール大会ではチームワークの良さを発揮し、優勝の栄冠を勝ち取りました。研究室の活動についてはホームページ (<http://tf.me.tut.ac.jp/>) に随

時掲載しておりますので、ぜひご覧下さい。

卒業生・修了生の皆様のご健康とご活躍を祈念致しますとともに、今後とも研究室をお引き立ていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 機械ダイナミクス研究室の近況報告

教授 河村 庄造

卒業生・修了生の皆様方におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。平成22年に学内再編があり、機械工学系、機械・システムデザインコースに所属することになりましたが、研究室の名称は以前と同じ「機械ダイナミクス研究室」です。現在の研究室のメンバーは、河村庄造教授、安田好文教授（兼務教員、体育・保健センター所属）、感本広文教員（客員教授、現静岡理科大学教授）、博士後期課程1名（社会人）、博士前期課程16名、学部生6名です。竹園茂男教授の時代から本研究室を支えて下さった感本先生は平成24年4月にご栄転となりましたが、今年も客員教授として学生の研究指導をお願いしております。

研究室では、機械力学（振動工学）を基礎とした機械・構造物・スポーツ用具などの人工物および身体運動のモデル化、解析、設計に関する教育・研究を行っております。具体的には、仮想的外力の同定を援用した静止構造物や回転機械の異常診断手法の提案、プリクラッシュ・セイフティ・システムに代表される車両安全システムの構築や逆問題解析としての衝突事故の原因分析、締結要素や伝動要素等の機械・構造物の基本要素のモデル化と動特性解析、複数物体の繰り返し衝突特性やCFRPへの衝突・反発特性など衝突現象の詳細解析、ランニングやペダリング時の人体の運動解析やスポーツサーフェスの数学モデルの構築、高齢者の動作解析および転倒防止への応用などのスポーツ&ヒューマンダイナミクスに関する

研究などです。

さて研究室の恒例行事としては、夏の研究室旅行、開学記念駅伝大会への参加があります。研究室としての駅伝大会への参加は平成20年（第31回大会）からです。毎年複数のチームが参加し、体育会系クラブを除けばまずまずの成績を取っています（写真は平成24年の第35回大会）。また研究室の懇親会は、新歓、夏期中間報告会打ち上げ、進路決定、卒研打ち上げ、追い出しだけでなく、いろいろな理由を付けて頻繁に行っております。研究室の様子につきましてはホームページ (<http://dynaweb.me.tut.ac.jp/>) に掲載しておりますので、是非ご覧下さい。また本研究室ができてから今年が9年目であり、来年には10周年記念のイベントを企画する予定です。詳細についてもホームページで公開予定です。

最後になりましたが、卒業生・修了生の皆様のご健康、ご活躍を祈念するとともに、今後とも機械ダイナミクス研究室をご支援下さいますようお願い申し上げます。





# 2 電気・電子情報工学系

## 系 長 よ り

教授 櫻 井 庸 司

卒業生・修了生の皆様におかれましては、各方面にてご活躍のことと思います。既に報告させていただいております通り、一昨年度の学科再編に伴い、電気・電子工学系（旧 第3工学系）は、新たに電気・電子情報工学系（新 第2工学系）として生まれ変わりました。本系では、電気エネルギーや、ICなどの電子デバイス、更にはこれらを支える電気・電子材料などの教育研究を担当してきた電気・電子工学課程／専攻を、新たに電気・電子情報工学課程／専攻に改組しました。再編後の系内組織は、対象とする教育・研究分野により分類された以下の4分野で構成されています。

- ・材料エレクトロニクス分野
- ・機能電気システム分野
- ・集積電子システム分野
- ・情報通信システム分野

本改組に伴い、材料エレクトロニクス分野と情報通信システム分野が新規に追加され、旧 情報工学系、物質工学系ならびに知識情報工学系に所属されていた先生方が新メンバーとして加わっています。再編後3年目の本年度は、新2系として初めて3年次に高専からの編入生を受け入れることになりました。お陰様を持ちまして、全国の高専から約100名の学生が編入してきました。

さて、本年度は多数の先生方の異動がございました。まず、材料エレクトロニクス分野教授の太田昭男先生、集積電子デバイス分野准教授の朴康司先生、同技術専門職員の足木光昭先生が、平成24年3月末日をもって定年を迎えられご退職されました。開学初期からの先生方のご尽力に感謝の気持ちを込めまして、3月9日に新2系退職者送別会を開催致しました（右上写真）。また、高専一技科大人事交流制度により昨年4月に情報通信システム分野准教授に着任された宮下真信先生が、沼津高専制御情報工学科准教授に帰任されました。更に、機能電気システム分野助教の千坂光陽先生が、弘前大学理工学部電子情報工学科に転出されました。

一方で、高専一技科大人事交流制度により1年間沼津高専に出身されておりました市川周一先生（旧 本学知識情報工学系）が、平成24年4月1日付けで情報通信システム分野の教授として帰任されました。また、同日付けで上原秀幸先生（旧 情報工学系）が同分野の教授に昇進されました。更に、他大学からは石山武先生が材料エレクトロニクス分野准教授として、村上裕二先生が集積電子システム分野准教授として、石井佑也先生が材料エレクトロニクス分野助教にそれぞれ着任されました。

次年度には、いよいよ新系体制への完全移行を控えております。教職員一丸となり、社会に貢献できる教育研究活動を精進していく所存です。今後ともご支援の程どうぞ宜しくお願い申し上げます。



新2系退職者送別会（平成24年3月9日）にて

### ◆ 教職員紹介（平成24年4月現在）

#### <材料エレクトロニクス分野>

教授：福田光雄，井上光輝，松田厚範  
准教授：服部和雄，服部敏明，中村雄一，  
武藤浩行，石山 武  
助教：高木宏幸，河村 剛，石井祐也，  
加藤 亮<sup>\*1</sup>

#### <機能電気システム分野>

教授：長尾雅行，櫻井庸司，滝川浩史  
准教授：須田善行，村上義信，稲田亮史  
助教：栗本宗明，田上英人  
技術専門職員：日比美彦

#### <集積電子システム分野>

教授：石田 誠，若原昭浩，澤田和明，  
石井 仁<sup>\*2</sup>  
准教授：村上裕二，岡田 浩<sup>\*3</sup>，河野剛士  
原田八十雄<sup>\*3</sup>  
助教：高橋一浩，関口寛人，秋田一平，  
赤井大輔<sup>\*3</sup>

#### <情報通信システム分野>

教授：大平 孝，市川周一，上原秀幸  
助教：WUREN TUYA

<sup>\*1</sup> 研究基盤センター，<sup>\*2</sup> テーラーメイドバトンゾーン特任，  
<sup>\*3</sup> エレクトロニクス先端融合研究所，<sup>\*4</sup> グローバルCOE特任



## 退職教員より

元 電気・電子情報工学系 教授 太田 昭 男

3月末日をもって本学を定年退職しました。顧みますと、昭和53年4月に大学創設とともに名古屋大学より赴任し、34年間にわたり電気・電子工学の基盤となる教育研究に従事し、充実した教員生活を送ることができました。これもひとえに皆様からの格別のご指導ご鞭撻のお蔭と心より感謝致しております。

退職後も、客員教授としてしばらく席を頂きましたので、超電導に関する科研費（最終年度）の成果報告書の作成や、国際会議でのマイクロ波応用の成果発表など、自分のペースで残された研究テーマを楽しんでおります。その傍らで、悠々自適の新しい人生に向けて助走を開始しました。春には、家内と一緒に浜名湖畔の山寺を度々訪れ、湖をバックに色とりどりに咲き誇る山桜や深山ツツジに感銘するとともに、忘れかけていた“美しき日本”を再認識しました。また退職後の日課として、足腰の鍛錬や健康維持のため、雨天を除く毎日、片道2kmをサイクリングして高師緑地公園まで出向き、公園の最外周（約1.5km）を15分程で歩く所謂“早足ウォーキング”に励んでおります。公園内に生い茂る200本ものアカマツの巨木に畏敬の念を抱きつつ、また時には、木の間隠れに通過する色鮮やかな車両（渥美線）に郷愁を覚えながら、木漏れ日を全身に浴びて、肩で風を切り足早に歩いています。何周もするうちに陶酔感に襲われ、名状し難い爽快な

気分になり、身も心もリフレッシュされます。10月下旬からは、秋の深まりとともに公園内の落葉樹が鮮やかに紅葉し、見る者の心を和ませてくれます。今後は、足腰の鍛錬を通してトラベルフォース（旅力）の強化に繋げ、家内と一緒に軽装で行ける山登りや神社仏閣巡りを楽しみたいと思います。公園内には鈴木悦（記者）と田村俊子（作家）の“愛の比翼塚”があり、隣の石碑には瀬戸内寂聴の撰文が刻まれているので、豊橋にお立ち寄りの際には一度ご覧下さい。

日本では、東日本大震災、原発事故、円高、デフレと大変苦しい状況が続いていますが、未来を信じてマインドを高め、本学同窓生としての誇りを持ち、実践教育で磨かれた自分のスキルを信じ、家族を大事にして悔いのない人生を歩んで頂きたいと思います。今後益々、同窓生との絆が重要になると思いますので、結束を一層強化して頂きたいと思います。

4年前、田所嘉昭教授（現名誉教授）の強い働きかけにより、旧3/4系（電気・電子／情報工学系）に待望の同窓会「三志会」が誕生し、「三つの志」に各人各様に魂を入れることになりましたが、私は誠実・信念・努力の三志を入魂しました。誠実に信念をもって努力する！豊橋技術科学大学及び大学同窓会の一層のご発展を祈念致します。



高師緑地公園にて



## 退職教員より

元 電気・電子情報工学系 准教授 朴 康 司

開学初期から本学に赴任し 34 年が過ぎ、平成 24 年 3 月に定年退職いたしました。赴任から数年間は、学生実験や研究の立ち上げを精力的に行いました。とりわけ、当時 NEC から赴任された中村哲郎先生（故人）のご尽力で、NEC の集積回路 2 インチライン製造装置をごっそり本学に移転することになり、電子デバイス大講座教職員・学生総出で、立ち上を行ったことが、昨日のように思い出されます。また、その結果として、現在、本学アイリスにある「LSI 工場」の礎が築かれたと思います。

退職後のイベントとしては、私を囲む会と称して、「電子デバイス大講座」の卒業生が祝ってくれたことでした。「囲む会」では、私の歴史のなかで、1 期生の松井正好君をはじめとし、実に幅広い年代にわたる方々（約 20 名）に参加いただきまして、感無量でありました。また、卒業生皆さんからの、一言などを聞かせていただきましたが、立派にご活躍されている様子が伺え、安心しているところです。

また、退職後、今までの不摂生がたたりに、体調が今一つでした。身内に医者がいることもあり、時間がある今のうちに、徹底したメディカルチェックを行うことになりました。通常の間人ドッグに加え、PET 検査や MRI の CT、胃カメラ、腸カメラ検査などを受けました。幸い、大きな問題がないことがわかりましたが、数値的に問題点も多く、生活習慣を大きく変えることとなりました。具体的には、タバコをやめること、飲酒をひかえることです。この 1 カ月は、問題なくクリアできております。今後、第 2 の人生の計画を早急に立てよう思っています。特に、未曾有の東日本大震災に対しては、まだまだ、圧倒的に援助が足りませんし、日本のエネルギー政策もふらふらしています。私は韓国人ですが、生まれも育ちも日本です。今まで、日本の社会からお世話になっており、何かお役にたてる道を探そうかと思ひます。最後に、豊橋技術科学大学及び大学同窓会の益々のご発展を祈念致します。



自宅にて



## 退職教員より

元 電気・電子情報工学系 技術専門職員 足木 光昭

この3月に定年退職し、現在エレクトロニクス先端融合研究所（EIIRIS）の特命技術職員として本大学に引き続きお世話になっております。1981年11月（修士一期生の卒業年度）にこの豊橋技術科学大学の旧第3工学系電子デバイス大講座に着任しました。当時NECから来られた中村哲郎先生がNECの多摩川半導体工場から2インチの半導体製造装置を持ち込み、朴康司先生、石田誠先生が装置のさび落とし、ペンキ塗りをして使えるようにした後、私に製造装置のおもりとクリーンルームの維持管理、学生の研究・実験の面倒見て欲しいとのラブコールがありました。そのため静岡大学電子工学研究所からこちらに転勤して来ました。

着任当時は、npnバイポーラトランジスタ、オペアンプICの製作、その後アナログからデジタルICに変わりMOS-ICの製作を行って来ました。中村先生が亡くなられた後、石田先生が中村先生の意思（遺志）を継ぎ、1993年固体機能デバイス施設、2003年VBL施設、2008年固体機能デバイス施設増設とクリーンルームを拡大拡充されました。新しい大型製造装置が

入り見学コースの一つになり、ますますおもりが増える状況になりました。このクリーンルームと実験装置を使って卒業した学生が、半導体業界に入り活躍していることを見聞きする度に大変うれしく誇りに思っています。また、社会人を対象とした集積回路技術講習会30年間一度も休まず開催し、MOSIC製作プロセスを体験していただいた150社、480名の参加者からお褒めの言葉を頂いていることも誇りに思います。なお集積回路技術講習会は現在も進行形です。

こうして豊橋技術科学大学で定年退職を迎える事ができましたのも、諸先生方をはじめ、以前に退職された諸先輩方、卒業生の皆様のおかげと思っています。深く感謝しています。この6月には近隣の卒業生から下呂温泉で一泊二日の定年退職慰労会を開催していただきました。大変感激しました。有難うございました。30年間の思い出を限られた文字数にあらわすことは出来ません。最後に豊橋技術科学大学、電気電子情報工学系、大学同窓会の皆様方の今後ますますのご発展を祈っています。



下呂温泉 望川館にて



## 材料エレクトロニクス分野の新研究室紹介

平成 22 年度から電気・電子工学系が改組され、電気・電子情報工学系材料エレクトロニクス分野に旧物質工学系の 3 研究室（松田研・武藤研・服部研）が加わりました。

### <松田・河村研究室>

教授：松田厚範，助教：河村 剛，JSPS 外国人特別研究員：Darren J. LeClere，  
秘書：大羽友香，博士後期課程学生 2 名，博士前期課程 11 名，学部 4 年次学生 3 名

当研究室では、ゾルーゲル法，交互積層法，電気泳動堆積法，陽極酸化法，メカニカルミリング法などを用いて，光・電子やイオンが関わる機能性材料とその応用に関する教育・研究をおこなっております。例えば，高いイオン伝導性材料の開発と次世代燃料電池，金属／空気電池などへの応用，酸化物薄膜の低温合成と色素増感太陽電池，水素センサなどへの応用，波長選択性・偏光特性あるいは光記録特性を有するナノ粒子分散材料の合成とオプティクス・フォトニクス分野への応用に取り組んでおります。



松田教授



河村助教

### <武藤研究室>

准教授：武藤浩行，産官学連携研究員：羽切教雄，Phuc Huu Huy Nguyen，  
博士後期課程学生 1 名，博士前期課程 4 名，学部 4 年次学生 3 名

本研究室では，エレクトロニクスデバイスの発展を支える基幹素材の開発を行っています。例えば，機能性ナノ物質を添加した透明導電性材料，熱線吸収材料，高熱伝導材料などが，これまでにない新規な材料開発コンセプトにより創製されています。これと平行して，コンピューターシミュレーションによるナノ物質の集積化技術の確立と，これを応用したフォトニック結晶の開発，ナノインデンテーション法による，基板上に成膜されたナノ薄膜の力学特性評価手法の確立など，プロセスと評価を両輪とした研究開発を行っています。



武藤准教授

### <服部・加藤研究室>

准教授：服部敏明，助教：加藤 亮，博士前期課程 4 名，学部 4 年次学生 3 名

電気分析化学研究室では，いつでも誰でもその場で使える機動力のある分析機器の開発を目指して，半導体・透明ガラスなどの微小エレクトロニクスデバイスに有機薄膜を作製し，電気化学と光化学の技術を利用したセンサの開発を行なっています。例えば，イオン感応物質を含有する有機薄膜を用いるイオンセンサ・イオンイメージセンサ，インクジェット法を用いて半導体上に有機薄膜を作製したマルチイオンセンサ，機能性有機薄膜を用いた導波路型分子センサ，視覚認識を利用した分子センサなどの開発に取り組んでいます。



服部准教授



加藤助教

## 学内近況報告

情報・知能工学系 系長 三 浦 純

同窓生の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。学科再編から3年目となり、今回からは新3系（情報・知能工学系）としての近況報告となります。

本学では平成22年4月に学部と大学院が同時に再編を行いました。本年3月には新系としての最初の博士前期課程（修士課程）修了生を送り出し、また4月には新系への初めての3年次編入生が入学しました。前系長の青野教授のもと進められてきた再編もいよいよ仕上げの段階に入っています。母体となった情報工学系（旧4系）と知識情報工学系（旧7系）のこれまでの運営方針を尊重しつつ、新3系としての新たな方針の構築に全教職員が日々取り組んでいるところです。研究室、事務室はC棟、F棟の両方に分散しているため、会議等で両棟間を頻繁に行き来しています。

情報・知能工学系は情報処理に関わる基礎から最先端に至る幅広い技術科学の教育と研究を任務としています。研究分野は、基礎をなす「計算機学」と幅広い応用をカバーする「メディア情報学」「知能情報学」「情報ネットワーク学」の計4つで構成されています。2つの旧系の研究分野の大半を引き継ぎ、近年特に加速しつつある情報処理関連分野の広がりに対応できる体制となっています。一方、教育では「情報工学コース」と「知能情報システムコース」の2コースを導入し、幅広い知識とともに特定の分野についてはより深く学ぶ機会を提供しています。ただし、学生は所属コースに関係なく、各自の興味と意欲に応じて希望する分野

の研究室に所属することができます。新系の詳細につきましてはホームページ (<http://www.cs.tut.ac.jp/>) をご参照頂ければと存じます。

本学では今年度（平成24年度）から「次世代シミュレーション技術者教育プログラムの開発」を推進しています。このプロジェクトは、先端研究開発に不可欠な、スーパーコンピュータなどの高速計算機を利活用した高度シミュレーション技術を開発できる人材、使いこなせる人材の育成を目的とし、高専とも連携しながら進めているところです。情報・知能工学系は後藤准教授、関野教授、青野教授を中心としてプロジェクト推進に重要な役割を果たしています。

さて、本年度も数名の先生方の異動がありました。本年3月末をもって新田恒雄教授が定年退職され、現在は早稲田大学グリーンコンピューティング研究機構を中心にご活躍されると同時に、当系の客員教授として引き続き教育・研究にご助力頂いています。また、同じく本年3月末に酒井浩之助教が成蹊大学理工学部講師として転出されました。一方、本年4月にはメディア情報学分野に神納貴生助教が、また高専・両技科大教員交流制度にて、知能情報学分野に佐々和洋助教がそれぞれ着任されました。

世の中の変化はますます激しくなり将来の予測が難しい時代となっていますが、情報・知能工学系では今まで以上に社会に貢献できる教育・研究活動を行うべく一層努力して参りたいと存じます。同窓生の皆様には引き続きご支援、ご指導を賜れば幸いです。

教職員一覧及び学生現員 (平成 24 年 10 月現在)

【メディア情報学分野】

氏名	職名	専門分野
青野 雅樹	教授	情報検索, データマイニング
岡田美智男	教授	認知科学・社会的ロボティクス
栗山 繁	教授	画像/映像/CG 関連メディア
中川 聖一	教授	知能情報学
増山 繁	教授	自然言語処理, Web マイニング, アルゴリズム工学
三浦 純	教授	知能ロボティクス
秋葉 友良	准教授	知能情報学
金澤 靖	准教授	コンピュータビジョン, 画像処理
菅谷 保之	准教授	コンピュータビジョン
佐竹 純二	助教	画像処理, パターン認識
神納 貴生	助教	画像信号処理
デシルバ ラビンドラ	助教	社会的ロボティクス, 人-ロボット間での対人距離, ユーザモデル, 対人関係の微調整
山本 一公	助教	音声言語情報処理

【知能情報学分野】

氏名	職名	専門分野
石田 好輝	教授	知能システム学, 情報生命学
関野 秀男	教授	計算科学
高橋 由雅	教授	分子情報工学
中内 茂樹	教授	知覚認知情報学
堀川 順生	教授	神経科学, 聴覚情報処理
北崎 充晃	准教授	心理物理学, 認知神経学
栗田 典之	准教授	量子生物学, 計算科学
後藤 仁志	准教授	計算化学, ハイパフォーマンスコンピューティング
福村 直博	准教授	計算論的神経科学
村越 一支	准教授	計算知能
加藤 博明	講師	分子生命情報学
志賀 元紀	助教	バイオインフォマティクス
杉本 俊二	助教	神経科学
墨 智成	助教	化学物理, 計算科学, ソフトマター物理
永井 岳大	助教	視覚工学, 色彩工学
原田 耕治	助教	免疫システム科学, 複雑系

【計算機学分野・情報ネットワーク学分野】

氏名	職名	専門分野
梅村 恭司	教授	情報工学
藤戸 敏弘	教授	計算機科学
河合 和久	准教授	コンピュータサイエンス
大村 廉	講師	ユビキタス・コンピューティング, システムソフトウェア
小林良太郎	講師	計算機工学
相田 慎	助教	計算量理論
藤原 洋志	助教	アルゴリズム, オンライン最適化

【兼 務】

井佐原 均	(情報メディア基盤センター 教授)
大平 孝	(電気・電子情報工学系 教授)
市川 周一	(電気・電子情報工学系 准教授)
上原 秀幸	(電気・電子情報工学系 准教授)
桂田 浩一	(国際交流センター 准教授)
入部 百合絵	(情報メディア基盤センター 助教)
岡部 正幸	(情報メディア基盤センター 助教)
土屋 雅稔	(情報メディア基盤センター 助教)

【事務関係】

事務職員：斉藤 陽子, 丸山 利美, 中根ゆかり, 関 美知代 (C棟事務室 (新2系と共通))  
 佐野 友子, 依田 和子 (F棟事務室)  
 技術職員：片岡 嘉孝, 小西 和孝

【学生現員】

学部：1年次 12名, 2年次 14名, 3年次 101名, 4年次 61名 (旧4系)・62名 (旧7系)  
 修士：1年次 100名, 2年次 111名



## 退職教員より

### メディア処理の変遷の中で

情報・知能工学系 名誉教授 新田 恒雄

平成10年に豊橋技術科学大学に赴任し、24年3月に退職しました。豊橋にはマルチメディア処理を教育に活かす大学院講座開設に伴い赴任しました。コンピュータの処理対象は、初期のデータ(alphanumeric code)からテキストメディアへと拡張され、80年代90年代を経て、日本語も欧米と変わらない言語処理環境が用意されるようになりました。しかし、それらが“よく運用”されるまでには、まだギャップがありそうです。私は77年頃東芝の研究所で、発売以前の日本語ワープロJW-10を研究用に1台あてがわれていましたが、米国の知識処理システムとの格差を目にしていたので、「今後50年、日本人はこのシステムを取り込むため、大変な目に遭うだろう」と感じたことを覚えています。それから40年近く経ち残り後10数年ですが、新しい秘書さんが着任後直ぐ教授室周りの情報処理をこなせていますか？駅の窓口など社会システムを利用するシーンで、「特殊な装置を導入せずに」汎用端末とプリンターで用が足りていますか？Yesなら私の勘は当たらなかったことになりませんが、日本社会の共有文化となり成熟するにはもう少し時間が必要かもしれません。

昨年から、私たちを取り巻く情報処理環境が大きく変わり始めています。高速ネットとクラウド環境下で、スマートフォンに代表される情報通信端末を誰もが携帯する時代に入りました。そこではコンピュータの処理対象がテキストメディアから音メディア、映像メディアにまで拡張されています。私は90年代に、前半はサンマイクロシステムズ社との「マルチメディア分散処理フレームワーク」共同開発、後半にはやはり西海岸で立ち上げられた、当時の全マルチメディア処理を高速実行するメディアエンジンチップ開発に関係してきました。その中で、デジタルメディアの利点(こ

れによりICTは大きく進展)をよく理解したつもりですが、他方デジタルメディア化したことの代償として、対話性(操作性)が低下し、その改善に多くのエンジニア(あるいはユーザ)が労力を費やしていることを目の当りにしてきました。底流には、(A)メディアの違い、(B)ハードand/orソフトの違い、(C)利用者の違い、という三つの異種混交(heterogeneity)があると考えました。大学に移り、私はこの問題を解決するテーマとして「マルチモーダル対話」を選びました。近年、GUIに加えてタッチジェスチャ、音声入出力、さらに種々のセンサーを組込んだ端末が市販され始め、次世代インタフェースであるマルチモーダル対話(Multi-Modal Interaction; MMI)への移行が着実に始まっています。興味を持っていただけた方は、5月発行予定の電子情報通信学会誌特集号をご覧くださいければ幸いです。





研究室を立ち上げ、これまで三つのテーマ；(1)マルチモーダル対話，(2)音声認識・合成モジュール，(3)知的エージェントの概念獲得に取り組んできました。幸い(1)では、「対話記述言語(XISL)」が桂田准教授と研究室諸先輩の努力で、NTTドコモ社の携帯電話(一部スマートフォン)に採用されました。このテーマは90年代初頭にスタートしていたので、「継続は力なり」を地でいった成果と言えるでしょう。(2)では、音声認識と合成を共通の調音運動としてモデル化する方式を研究してきました。全体システムの完成には今少し時間が必要ですが、音声信号の中に隠れた発声器官の動きを捉え、CG画像に変換するという逆問題を解くアルゴリズムは、入部助教を中心とする研究室メ

ンバーの努力で、JSTの起業検証タイプに「語学学習ソフト」として採択されました。今後、ソフトの性能を一層向上させ、教育現場に応用して頂きたいと思っています。

大学再編が軌道に乗りつつあるなか、世の中は大学間競争が一段と激しく、また優秀な学生の争奪は世界規模に拡大しています。皆様のご活躍と技科大の益々の発展を祈っております。私も今後、東京と豊橋を歩き来しつつ、大学間での連携を通し研究成果実用化に尽力したいと考えております。

※この原稿は大学広報誌「天伯」No.133(オンラインマガジン第15号)に掲載されたものを、ご本人および広報係の了承を得て転載したものである。



## 新任教員より

情報・知能工学系(栗山研究室) 助教 **神 納 貴 生**

平成24年4月1日付けで本学情報・知能工学系に助教として着任しました神納と申します。学部から博士まで北九州市立大学で学び、同大学国際環境工学研究科情報工学専攻(奥田正浩教授研究室)にて学位を取得しました。



研究対象は新たな高品質画像となるハイダイナミックレンジ画像です。ハイダイナミックレンジ画像は広いダイナミックレンジの光情報を高ビットで持ち、この画像が持つ輝度方向に対して高分解能な詳細情報はこれまで困難であった微細な変化の検出に対して非常に有効であり、車載カメラや医用画像などの多くの分野で活躍が期待されています。しかし、ハイダイナミックレンジ画像は従来の画像と異なるフォーマットと性質を持つため、既存のディスプレイデバイスで容易に表示できず、またこれまで培われてきた画像処理技術が有効に働かない場合も少なくありません。そのため、

ハイダイナミックレンジ画像と既存のデバイスや画像処理技術とをつなぐ技術が必要となります。私は特に既存のディスプレイデバイスへの表示技術や、ごく微細な詳細の可視化、ユーザビリティを持った多層符号化などについて研究しています。私は最新技術と実際の現場とをつなぐ技術を開拓したいと考えています。

私は平成24年度の着任前は学生でしたので、本学に赴任してから初めて単独で教壇に立ち、また学生の研究指導を担当しました。着任から半年以上が過ぎますが、まだ不慣れなことも多く、教員の皆様をはじめ本学の方々にご助力いただきながら精進の日々を送っております。今まさに学生側の視点ではなく、一人称視点で教員の大変さを感じ、またその責任とやりがいの大きさをひしひしと感じているところです。まだまだ若輩の身に至らぬところが多いかと思いますが、同窓会の皆様、ご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 研究室だより

### 桂田研究室の近況

情報・知能工学専攻 修士2年 遠藤 基

卒業・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。今年度の春に新田恒雄教授がご退官されたため、桂田浩一准教授が研究室を引き継ぐ形となりました。新田恒雄教授には今でも週に一度ミーティングにお越しいただき、エンジングループを中心に指導を頂いております。

産学連携研究員1名、博士2名、修士12名、学部2名の計17名が桂田浩一准教授、入部百合絵助教の指導の下、気持ちを新たに研究に励んでいます。本研究室では現在、大別して①音声関連エンジングループ、②マルチモーダル対話グループの二つに分かれて研究を進めています。

エンジングループでは、これまでの諸先輩の研究を活かし、「調音運動を基にした音声認識/合成エンジン」の開発、改良を進めています。近年はこれを下地とした応用も盛んに行っており、例えば音声からの調音動作のCGアニメーションの生成や、発音の確かさのマップ表示を用いて教示する「発音訓練システム」、少量データで実現する「歌声合成システム」を挙げることで

きます。また、「Suffix Arrayを用いた高速音声検索」もより高性能になりました。

マルチモーダル対話グループでは、これまで諸先輩が開発してきた記述言語およびWebベースMMIシステムを利用し、更なる応用研究を進めています。例えば「対話エージェントの端末間移動を実現するシステム」の構築、「MMIアプリ作成のためのJavaScript用API」の開発を挙げるができます。また、「顔表情認識エンジン」と共に、近年新たに発足した「読唇システム」についても引き続き研究を重ねています。

恒例の夏合宿の登山は、昨年度は根子岳～四阿山でした。今年度は小秀山の予定でしたが、天候不良により断念いたしました。研究室の近況やメンバーについては、ホームページで公開しています。是非ご覧ください。また、お近くにお越しの際は気軽に研究室にお立ち寄りいただき、在学中やその後の貴重なお話を聞かせていただければ幸いです。一同、心よりお待ちしております。



# 青野研究室の近況

情報・知能工学専攻 青野研究室修士1年一同

卒業生・修了生，そして本研究室 OB・OG の皆様，いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれまして，大いにご活躍しておられることと存じます。

大学の再編に伴い，2010 年度より本研究室の名称が「知識情報データ処理研究室」から「知識データ工学・情報検索研究室」に変わりました。本研究室は現在，青野雅樹教授の指導の下，研究員1名，博士2名，修士14名，学部4名，研究生1名の総勢23名です。うち留学生が，バンラディッシュ人3名，ラオス人3名，インドネシア人1名，カンボジア人1名，ベラルーシ人1名の計9名で構成されており，ゼミや研究室のイベントでは英語を中心とした多言語が頻繁に飛び交い，より国際色が強い研究室となっています。

本研究室では，データベースや Web 上にある膨大な文章やマルチメディアの中から有用なデータを抽出する情報抽出技術に代表される，知的なデータ処理技術を研究しています。具体的なものとしては，三次元物体の分類・検索やセグメンテーション，Web スпамマイニング，Web サービスにおける評判情報抽出や推薦などがあります。研究成果については，国内外を問わず，積極的に論文投稿や学会発表を行っています。

研究室のイベントとして，新入生歓迎会やボウリング大会，バーベキュー，研究室対抗スポーツ大会，忘年会などがあり，研究室内の親睦を深めています。特



に，研究室対抗スポーツ大会においては，2010 年度と 2011 年度の 2 連覇を果たすことができました。

お忙しいことと存じますが，豊橋方面に来られることがございましたら，お気軽に研究室へとお立ち寄りください。研究室員一同，心よりお待ちしております。先輩方の貴重なアドバイスや卒業・修了後のお話を頂ければ幸いです。また，研究室のウェブページ (<http://www.kde.cs.tut.ac.jp/>) にて，研究内容や研究成果，研究室の近況等について公開しておりますので，是非ご覧ください。

最後になりましたが，諸先輩方の今後の更なるご活躍とご健康を，心よりお祈りしております。



## 学内近況報告

環境・生命工学系 系長 伊津野 真一

同窓生の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

学内再編については皆様ももうすでに各方面から情報を入手されておられることと思います。再編は学年進行で、順次環境・生命工学課程に新しい学生が入学してきましたが、今年度の4年生が最後の物質工学課程、エコロジー工学課程の学生になります。物質工学ならびにエコロジー工学課程を卒業された皆様におかれましては、課程の名称が変わり、少し寂しい思いが残るかもしれません。本学にとっては新たな飛躍に向けて重要な一歩であることは間違いありませんので、どうぞご理解ください。このように新たに発足した環境・生命工学系も一通り完成に近づいたということになります。環境・生命工学系の近況についてご報告いたします。

皆様ご存知のように旧エコロジー工学系と旧物質工学系が一つの系となり「環境・生命工学系」が2010年に発足しました。従って大学院博士前期課程はすでに昨年度に環境・生命工学専攻の修了生を送り出しました。再編により発足した5つの工学系では、学部から大学院博士後期課程まで一つの系で運営できるように博士後期課程についても大幅に再編されました。これまでは物質工学専攻からは、機能材料専攻へ、またエコロジー工学専攻からは環境生命工学専攻の博士後期課程進学となっていました。一本化して、環境・生命工学専攻が今年度発足しました。卒業生の皆様も、博士の学位取得を考えておられる方は環境・生命工学専攻での学位取得を目指してください。

教員は大きな変化はなく、旧物質工学系、旧エコロジー工学系の教員が環境・生命工学系を担当しています。エコロジー工学系の卒業生の方々はずすでにご存じのことと思いますが、北田先生が、昨年度から岐阜高専の校長として移られました。北田先生は環境・生命工学系の初代系長を1年間勤められた後、岐阜高専に移られましたので、木曾先生が後任の系長として昨年度1年間、環境・生命工学系をまとめてこられました。北田先生の移動とともに東海林先生が、講師に昇任されました。ただし東海林先生は今年の4月から、高専一技科大の教

員交流の一環として1年間ですが、岐阜高専で教育研究活動を進めておられます。従って旧北田、東海林研究室の学生諸君は、木曾先生が指導教員として研究を行っています。その木曾先生も、今年度を最後に来年2013年3月にはご定年を迎えられます。3月には木曾先生の最終講義をお願いいたしますので、その際には皆様ぜひお集まりください。まだ日程等は決まっておりません。同窓会等との連絡を密にしておいてください。

旧物質工学系関連では、ご出身の方はすでにご存じのように、一部の研究室は、環境・生命工学系に直接は所属していません。具体的には、大串先生が総合教育院、松田、服部、武藤、河村先生は電気・電子情報工学系を本務とされており、環境・生命工学系を兼務する形をとっておられます。河内岳大助教は、昨年度7月で退職され、現在は、東京工業大学資源化学研究所にお勤めです。再編により、環境・生命工学系となりましたが、本学の化学系の研究、教育の中心は、本系におかれていることは言うまでもなく、3年次編入学生の受入れも大部分は高専の物質系出身です。また、本年9月には、「環境・生命と化学教育」をテーマに本学主催の全国大学化学系教育研究集会を環境・生命工学系の担当で開催しました。本学の化学教育の在り方についても様々な提言をいただきました。

環境・生命工学系は「未来環境工学コース」と「生命・物質工学コース」の2コースから成り立っています。それぞれのコースは、「先端環境技術分野」と「生態工学分野」、「生命工学分野」と「分子機能化学分野」を含んでいます。それぞれの分野の研究室および教員の配置については、表にまとめましたので、ご覧ください。

以上のように大学の組織は再編により大きく変わりました。環境・生命工学系は、高専物質系の受け皿としての機能は残しつつ、環境、生命を柱に多彩な領域をカバーする複合学科としてスタートしました。我々は環境・生命工学系をより一層高いレベルへと発展させていかなければなりません。卒業生の皆様におかれましては、新しい環境・生命工学系をぜひご支援いただければ幸いです。

環境・生命工学系 教職員名簿

コース名・分野	本務教員		兼務教員			
	研究室名	教員名	本務所属	研究室名	教員名	
未来環境工学コース	先端環境技術分野	センシング応用研究室 [田中(三)・廿日出研究室]	田中 三郎 教授 廿日出 好 准教授	研究基盤センター	無機材料解析研究室 [中野研究室]	中野 裕美 教授
		機能性界面科学研究室 [松本研究室]	松本 明彦 教授	総合教育院	無機材料物性評価・応用研究室 [大串研究室]	大串 達夫 教授
		静電気応用研究室 [水野・高島・栗田・安田研究室]	水野 彰 教授 高島 和則 准教授 栗田 弘史 助教 安田 八郎 助手	電気・電子情報工学	機能性材料科学研究室 [松田・河村研究室]	松田 厚範 教授 (河村 剛 助教)
		反応エネルギー工学研究室 [小口研究室]	小口 達夫 准教授		電気分析化学研究室 [服部研究室]	服部 敏明 准教授
		機能触媒システム工学研究室 [水嶋研究室]	水嶋 生智 准教授		プロセス・評価解析研究室 [武藤研究室]	武藤 浩行 准教授
	無機材料物性評価・応用研究室 [大串・佐藤研究室]	佐藤 裕久 助教				
	生態工学分野	環境触媒化学・資源再生化学研究室 [角田・大北研究室]	角田 範義 教授 大北 博宣 助手			
		水質保全工学研究室 [木曾研究室]	木曾 祥秋 教授			
		大気・熱環境システム研究室 [東海林研究室]	東海林孝幸 講師 (出向中)			
		持続社会工学研究室 [後藤研究室]	後藤 尚弘 准教授			
資源循環工学研究室 [大門研究室]	大門 裕之 准教授					
生命物質工学コース	生命工学分野	分子遺伝学研究室 [浴研究室]	浴 俊彦 教授	体育保健センター	運動生化学研究室 [佐久間研究室]	佐久間邦弘 准教授
		生命科学研究室 [菊池・梅影研究室]	菊池 洋 教授 梅影 創 講師	情報・知能工学	聴覚情報研究室 [堀川研究室]	堀川 順生 教授
		生物機能工学研究室 [平石・山田研究室]	平石 明 教授 山田 剛史 助教		計算化学研究室 [後藤研究室]	後藤 仁志 准教授
		遺伝子工学研究室 [田中(照)研究室]	田中 照通 准教授	エレクトロニクス 先端融合研究所	応用共生学研究室 [中鉢研究室]	中鉢 淳 准教授
		生体分子工学研究室 [吉田(絵)研究室]	吉田 絵里 准教授	建築・都市システム学	水環境工学研究室 [井上研究室]	井上 隆信 教授
		生命機能科学研究室 [吉田(祥)研究室]	吉田 祥子 講師			
	分子機能化学分野	高分子機能化学研究室 [伊津野・原口・藤澤研究室]	伊津野 真一 教授 原口 直樹 助教 藤澤 郁英 助手			
		高性能高分子材料研究室 [竹市研究室]	竹市 力 教授			
		生分解性高分子材料研究室 [辻研究室]	辻 秀人 教授			
		有機合成化学研究室 [岩佐・柴富研究室]	岩佐 精二 教授 柴富 一孝 助教			
		マイクロ分離科学研究室 [齊戸研究室]	齊戸 美弘 准教授			
		分離分析化学研究室 [平田研究室]	平田 幸夫 准教授			
技術専門職員		太田 初一 齊藤 年秀 坂井 悦子				
環境・生命工学系事務室	B棟事務室	鈴木いづみ				
	G棟事務室	小林美和子 坂上千恵子				



## 研究室だより

### 機能性界面科学研究室（松本研）の近況

修士二年 相馬 美咲

複合材料研究室・機能性界面科学研究室の卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。諸先輩方におかれましては、日々御健勝のことと存じます。

さて、旧物質工学系が発展的に環境・生命工学系となり3年が経ちました。年ごとに新系への移行が進行した結果、大学院博士前期課程（修士課程）は全員が新系の所属となり、4年生が物質工学課程最後の学生となりました。

機能性界面科学研究室（松本研）には松本明彦教授のもと大学院学生（博士前期課程）6名、学部学生4名の計11名が在籍して、日々研究活動に励んでいます。研究活動以外は以前の物質工学系の研究室単位であった複合材料研究室として、高機能高分子材料研究室（竹市研究室）ともに行っています。竹市研には、竹市力教授のもと博士後期課程学生1名、前期課程学生8名、学部学生3名の計12名が在籍しております。

私が所属する松本研究室では、ゼオライト、金属酸化物系のナノ多孔体、多孔性有機金属錯体への吸着を対象にして研究を行っております。平衡吸着状態の解析だけでなく、動的吸着系についても研究をしています。主な研究テーマは次のとおりです：1. 周波数応答法を用いたゼオライト、メソ多孔性シリカ表面への吸

着と細孔内拡散の解析、2. 金属酸化物修飾によるメソ多孔性シリカ表面の機能化と細孔形状制御による新規ナノ多孔体の創製、3. ゼオライトの静的、動的なCO<sub>2</sub>吸着の特性化、4. 多孔性有機金属錯体への吸着挙動の解析。それぞれの研究の成果は国内外の学会で発表するとともに、他の研究者との交流も積極的に行っております。

研究室のイベントは、竹市研究室とともに“複合研”として、歓送迎会、忘年会、新年会、研究室旅行を行うほか、研究の合間はソフトボール、ボウリングなどをとおしてリフレッシュし、研究室内メンバーの親睦を深めております。本研究室の情報につきましては、HP (<http://ens.tut.ac.jp/composites/jp/index.html>) に公開しておりますのでご覧頂ければ幸いです。

卒業生・修了生の皆様方におかれましては大変ご多忙のことと存じますが、豊橋へ御越しになる機会がございましたら是非研究室にお立ち寄りください。先輩方の在学中や卒業・修了後の貴重なお話をお聞かせ頂ければ嬉しく思います。研究室一同楽しみにお待ちしております。先輩方の更なる御活躍と御健康をお祈り申し上げます。



# 菊池研究室の近況

M1 横田 哲朗

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場の最前線で大いに活躍のことと存じます。では菊池研究室の近況を御報告致します。

現在、当研究室では大きく分けて『RNA アプタマーの生産や応用に関する研究』、『海洋性光合成細菌が菌体外へ核酸を放出する事に関する研究』、『RNA の分解耐性に関する研究』の3つを中心に、核酸分子の持つ新たな機能の解析、創製そして応用を目的として研究を行っています。

『RNA アプタマーの生産や応用に関する研究』では、近い将来かなりの需要が見込まれる機能性 RNA において、コストが掛りすぎる化学合成や酵素合成に代わる RNA の安価な大量生産を目指し、主に海洋性光合成細菌を用いて研究を行っています。また、飲料中に混入したある種の細菌を迅速に検出するための特異的な分子プローブとして機能する RNA アプタマーの取得および性能評価などの研究を行っています。

『海洋性光合成細菌が菌体外へ核酸を放出する事に関する研究』では、一般的にタンパク質を作るための設計図として知られる DNA や RNA が、ある種の細菌では菌体外に分泌されているという興味深い現象に関し、分子生物学的手法による解析にて核酸分泌機構や、核酸分泌と菌の挙動の関係を明らかにすべく研究を行っ

ています。また、海洋性光合成細菌がナチュラルに分泌している核酸中の RNA アプタマー探索なども、本年度より取り組んでいます。

『RNA の分解耐性に関する研究』では、通常の RNA が分解する環境下でも分解されにくいという今までの常識を覆す RNA が当研究室で発見されました。この発見は、創薬などの分野で課題となっている RNA の安定化を達成する可能性を秘めており、今後の展開が期待されています。現在、この RNA に関する分解耐性のメカニズムを研究するとともに、同様の性質を持つ RNA の探索等を行っています。

現在の菊池研究室は、菊池洋教授、梅影創講師、坂井悦子技官、修士2年4名、修士1年3名、学部4年4名の総勢14名で構成されています。

今年度も、研究室メンバー全員、昼夜を問わず研究を行い、多数の学術論文、学会発表を行っています。

皆様、ご多忙の事かと存じますが、近くにお越しの際には是非お立ち寄り下さい。研究室一同、心よりお待ちしております。なお、研究室ホームページ <http://rna.ens.tut.ac.jp/> において、研究室についてなどを公開しておりますのでご覧いただければ幸いです。

最後になりますが、諸先輩方の更なるご活躍を研究室一同祈念致しております。

# 辻研究室の近況報告

B4 早川 朋宏

卒業生、ならびに修了生の皆様におかれましては、豊橋技術科学大学で学ばれた知識を十分に活かして、各職場においてご活躍のことと存じます。本稿では、辻研究室の近況を報告いたします。現在、当研究室では、辻秀人教授をはじめ、以下、博士課程2名、修士課程6名、および学部生3名、計12名で活動しています。当研究室では、再生可能な植物資源より生産され、自然環境内および生体内で加水分解される、自然環境あるいは生体に対して負荷の少ないポリ乳酸を中心とした生分解性高分子材料の物理的特性および生分解特性の制御を目的として研究を行なっています。具体的には、生分解性ポリエステル合成、ブレンド、材料加工プロセスなどにより構造制御を行ない、種々の物理的特性（高性能化・機能化）および生分解性をもつ生分解性高分子材料を開発することです。以下に主な研究内容を示します。

- 生分解性高分子材料の生分解機構および分解に伴う構造・特性の変化の解析

種々の生分解性高分子材料について、種々の条件下での分解挙動を構造（一次構造・高次構造）および材料特性の両面から解析し、実際の使用に関するデータを蓄積するとともに、生分解機構を解析します。また、これらの研究から、生分解性高分子材料の生分解性の制御法を開発しています。

- 光学異性高分子間のステレオコンプレックスに関する研究

ポリ乳酸のL体とD体の間の相互作用はL体間またはD体間よりも強く、その結果として、ステレオコンプレックスを形成します。この様な例は数多く報告されていて、本研究では、ポリ乳酸をモデルポリマーとして、

ステレオコンプレックスを形成させることによる耐熱性の改善、高強度化、および耐加水分解化に関する研究を行っています。

本研究室の卒業生である出口さんの卒業論文が、すでにWiley社のMacromolecular Chemistry and Physicsに掲載されていますが、それに関する特別記事がMaterials Viewsに掲載されました。下記のサイトでご覧いただけます。

<http://www.materialsviews.com/designing-and-processing-biodegradable-materials/>

また、在学生である細川さんの卒業論文が、世界で初めて3種の光学性ポリマーからステレオコンプレックス形成が起こることを報告した論文として、アメリカ化学会発行のACS Macro Lettersに掲載されました。詳細につきましては下記のサイトをご覧ください。

<http://pubs.acs.org/articlesonrequest/AOR-N8d9f4QdwFfcZPQBtN4c>

あるいは

<http://pubs.acs.org/journal/amlccd>

ご多忙とは存じますが、本学の近くにいらした際には是非研究室に足を運んで頂き、いろいろな話をして頂ければと思います。最後になりましたが、諸先輩方の更なるご活躍を研究室一同、心よりご祈念致しております。





# 持続社会工学研究室(後藤研究室)の概要及び近況

M2 小林 義 幸

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場で大いに活躍のことと存じます。

本稿では、持続社会工学研究室(後藤研究室)の概要、及び近況についてご報告いたします。はじめに、本研究室の概要を説明いたします。本研究室では、循環型社会や低炭素社会を目指した持続可能な社会システムについて幅広く研究しています。アンケートやインタビュー、実地調査、資料調査、インターネット調査による情報収集を実施し、持続可能な社会システムの設計、及び評価を行っています。さらに、システムの構築後は、それらの研究成果を世の中に普及させていく方法を考えています。産学官連携のプロジェクトも多く、皆がやりがいを持って研究に打ち込んでいます。以下に、本研究室で取り組んでいる研究分野の例を簡潔に示します。

「テーマ1：持続社会を設計するための地域物質循環解析システムの構築」

地域における物質フローを解析するシステムを設計し、環境負荷・資源消費最少となる物質循環をシミュレーションし、環境低負荷型社会を提言します。本研究の成果によって愛知県やEPOC(環境に関心のある県内企業の任意団体：<http://aichi-shigen-junkan.jp/>)と共同で資源循環情報システムを開発しました。

「テーマ2：廃棄物リサイクルのライフサイクル分析」

廃棄物のリサイクルシステムを地域に導入した場合、マクロ的な環境負荷の変動を調査・解析し、効率の良い回収システムを提言します。

「テーマ3：環境行動を促進する環境情報の有効性に関する研究」

環境意識は高いが環境行動を実践しない人は多いです。そのような人に対してどのような環境情報を与えれば有効かを研究します。

次に、本研究室の近況について報告いたします。現在、本研究室は、後藤尚弘准教授以下、博士後期課程1名、博士前期課程11名、学部生4名の17名で活動しています。今年度の後期から、新たにインドネシアの留学生1名、ウズベキスタンの留学生1名を迎え入れ、17名中4名が留学生となっております。さらに、ゼミ発表でのスライドが英語表記に変更され、国際色豊かな研究室となりました。研究活動以外では、4月に

花見、8月にゼミ合宿等の行事を実施しました。特に、今年度のゼミ合宿では、富山県立大学の教員、及び学生と合同で行うことで、学生1人1人にとって非常に有意義な合宿となりました。また、今年の8月に開催された日本環境共生学会、9月に開催された環境科学会にて、本研究室の学生が研究発表を行いました。以下に、研究発表の内容を示します。

「日本環境共生学会」

- ・日本の食料システムの持続可能性に関する研究
- ・マルチエージェントモデルを用いた消費者の環境配慮製品購買行動に関する研究

「環境科学会」

- ・システムダイナミクス(SD)モデルを用いた廃棄物発生量の将来予測
- ・大学生の環境行動と環境情報の関係に関する研究
- ・Preliminary Design of Eco-City in Indonesia by MFA, LCA and MFCA of Cement Industry
- ・Preliminary Assessment of Economic Feasibility for Establishing Dismantling and Sorting Facility of Household's E-waste Computer in Serang, Indonesia

以上で、研究室の近況報告を終了いたします。皆様、ご多忙のことかと存じますが、大学近辺にいらした際には是非研究室へお越しください。最後になりますが、諸先輩方の更なるご活躍を研究室一同、心よりご祈念いたしております。

————◇◇◇————

2012年環境科学会年会においてM2の小林君が「大学生の環境行動と環境情報の関係に関する研究」で優秀研究賞を受賞しました。報告させていただきます。

(後藤尚弘)



## 学内近況報告

准教授 加藤 茂

この夏は、3.11 東日本大震災に端を発した原子力発電の有り方に注目が集まり、ほとんどの原子力発電所が停止する中、日本中で官民間わずに節電に励み、幸い大きな問題が生じることも無く、乗り切ることが出来ました。特に関東、関西方面にお住いの卒業生の皆様は、仕事と私生活の両方で節電の必要性を肌で感じられた方も多数おられたことと推察いたします。そのような日本全体が苦境に面した状況の中でも、卒業生の皆様におかれましては、それぞれの分野で日々ご活躍のことと存じます。本系におきましては人事異動や新課程3年次への編入生受け入れ、安心安全地域共創リサーチセンター（通称 CARM）と技術者教育プロジェクトのシンポジウム開催などがありましたので、本系の近況報告をさせていただきます。

最初に、平成24年9月29日（土）に本系が中心となって実施しております“技術者教育プロジェクト高等専門学校教育と連続する「らせん型技術者教育」モデル”の一環として開催しましたシンポジウム「安全安心な社会を創造する建設技術者像ー技科大教育の30年、これまでとこれからを考えるー」に、多くの卒業生の皆様にご協力いただきましたことを心よりお礼申し上げます。当日は土曜日の昼間にもかかわらず、約50名の卒業生の方々にホテルアソシア豊橋にお集まりいただきました（参加者：卒業生、在校生、学内関係者等、合計150名弱）。また、170名近くの卒業生の皆様からアンケートに対する回答をお送りいただきました。重ねてお礼申し上げます。このシンポジウムでは、第1部で6名の卒業生の方に学生時代の経験や社会に出て技術者として活躍するための心構えなどをお話いただき、第2部では今後、本系で実践すべき技術者教育の内容についてご議論いただきました。現在、本系ではJABEEおよび一級建築士資格へ

### 教職員一覧

#### ■新任

- 岡辺 拓巳（2012年10月、前職は豊橋技術科学大学 研究員）  
斉藤 大樹（2012年11月、前職は建築研究所 上席研究員）

#### ■転出

- 青木 伸一（2012年4月、大阪大学・教授）  
眞田 靖士（2012年4月、大阪大学・准教授）  
細野 康代（2012年4月、首都大学東京・特任助教）

#### ■高専交流人事

- 松本 嘉孝（2012年4月より豊田高専から本学准教授として1年間赴任）

#### ■現職

##### [建築・都市デザイン学分野]

- 教授：松本 博（系長）、山田聖志、大貝 彰  
松島史朗、斉藤大樹、浜島昭二（兼任）  
山本 淳（兼任）  
准教授：泉田英雄、浅野純一郎、中澤祥二  
松井智哉、増田幸宏、垣野義典  
中森康之（兼任）  
助教：谷 武、源城かほり、松本幸大  
助手：渋谷達郎

##### [都市・地域マネジメント学分野]

- 教授：廣島康裕、河邑 眞、三浦均也  
井上隆信、山口 誠、宮田 讓  
藤原孝男、北田敏廣（兼任）  
木曾祥秋（兼任）  
准教授：澁澤博幸、加藤 茂、松本嘉孝  
助教：横田久里子、岡辺拓巳

##### [両分野]

- 技 官：金田隆文、片岡三枝子

（2012年11月現在）

の対応を行っております。これらの今後の取り組み方針を検討するために考慮すべき重要なご意見を伺うことが出来ました。シンポジウムの詳細につきましては、報告書（冊子）ならびに系のホームページでご報告さ

させていただきますので、そちらをご参照下さい。また、平成24年12月7日には、CARM主催シンポジウム「沿岸域における地震防災」一津波浸水予測域におけるレジリエンスの向上」を豊橋商工会議所で開催しました。メンバーの多くが建築・都市システム学系教員で構成されている、CARMが中心となって本学における地域防災研究を推進しております。一方、今年度は全学再編後3年目を迎えて、建築・都市システム学系として3年次編入学生を初めて迎えるとともに、開学当初から続いてきた建設工学系の最後の4年生を送り出す年となりました。同時に、博士後期課程も以前の系を跨いだ4専攻から再編後の各系に直結した5専攻に再編され、新たな大学院教育をスタートさせました。

さて、この1年間の本系関連の人事異動について紹介いたします。この1年は多くの人事異動がありました。まず、長年本学で尽力された青木伸一先生、また、

眞田靖土先生が大阪大学へ転任されました。また、細野康代先生が母校でもある首都大学東京へ転任されました。新任教員としては、高専との交流人事により、豊田高専から松本嘉孝先生が准教授として1年間の予定で赴任されておられます。さらに10月からは本学OBの岡辺拓巳先生が助教として赴任され、11月には斉藤大樹先生が建築研究所より教授として赴任されました。

大変大まかではございますが、以上のように系内の近況についてご報告させていただきました。本年度も松本博系長以下、教職員それぞれが教育、研究、大学運営、地域貢献活動などに全力で取り組んでおります。卒業生の皆様におかれましては、今後益々ご健康でご活躍されますようお願いいたしますとともに、引き続き本系に対してご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 建設工学系卒業生シンポジウム 開催報告

実行委員長 大 貝 彰

本学は3年前秋に創立35周年を迎えました。35年前、本学は日本経済が最後の右肩上がりであった時に誕生しましたが、人口減少・少子高齢化時代に向かい、また、グローバル社会に向けて教育・研究を発展させてなくてはならない時代となってきました。こうした中、2010年に建設工学系は建築・都市システム学系として再編を行い、新しい教育研究目標を設定することでデザイン力・マネジメント力・国際競争力等に力を入れてきました。

本学はご存じのとおり高専生を3年次編入で受け入れてきており、高専と連続した形で学習を進めてきております。また、土木・建築の融合学科として教育カリキュラムが設定されていることも特徴です。こうした教育システムは変わるものではなく、この教育システムを念頭に、これからどのような技術者を育てていくかを議論する場として本シンポジウムを開催し、多数の貴重なご講演、議論を設定させていただきました。

### シンポジウムの概要

開会挨拶 系長 松本 博

OB代表挨拶 正田要一

主旨説明 大貝 彰

第1部 OBの技科大体験と求める建設技術者像

話題提供

柳田耕治（梓設計）

合樂将三（鹿島建設）

東田豊彦（積水ハウス）

筒井康史（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）

舟橋 香（国土交通省中部地方整備局）

種市里美（中央設備エンジニアリング）

第2部 これからの技科大建設教育を考える

現在の教育カリキュラム紹介 井上隆信

卒業生アンケート結果の紹介 浅野純一郎

パネルディスカッション

閉会挨拶 系長補佐 井上隆信

当日は卒業生、在學生、教員に加え、退職された先生にもお越しいただき、100名を超えるご参加を頂きました。第一部では卒業生の皆様から大変貴重な経験談や在學生へのメッセージを、第二部では現在の技科大教育に関する活発な議論が行われ、在學生のみならず教員にとっても大いに刺激を受けるシンポジウムとなりました。

これからの技科大および技科大教育の発展には、同窓生の皆様をはじめとする関係の皆様からのご支援・ご協力が不可欠であることを改めて確信させて頂いたシンポジウムでした。最後になりますが、ご出席頂いた皆様に改めてお礼申し上げますとともに、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



シンポジウムの様子



交流会の様子

## 新任教員より

准教授 松本 嘉孝



平成24年4月、高専・技科大教員交流制度により、豊田高専環境都市工学科から1年間の期限付きで建築・都市システム学系准教授に着任いたしました。

豊田高専では7年間教鞭をとっていたこともあり、系内にもちらほら親しくしていた学生と会います。そんな時、昔のことを思い出しながらも、大学でたくなってきた(?)彼ら、彼女らと話ができることをうれしく感じています。

私の専門は水環境工学であり、「山地河川における炭素移動量に関する研究」や「絶滅危惧魚類の生息場環境の把握」といった、理学や農学などとクロスオー

バーした研究をしています。ただ、最大の特徴は現場（河川や森林など）で調査・観測を行うことであり、研究室の先生や学生達と、夏の暑い日も、冬の寒い日も、雨の降っている時もフィールドを駆け回っています。泥臭い研究分野ではありますが、人にはなかなか

真似のできない研究を目指して日夜励んでおります。

1年間という短い期間ではありますが、今後の技科大・高専にとって持続的に発展する関係を目指し精進して参りたいと思います。

## 助教 岡 辺 拓 巳



2012年10月より建築・都市システム学系に助教として着任いたしました。高知工業高校を卒業した後、本学建設工学課程、修士課程（青木伸一研究室）にて

学びました。民間企業を経て2006年より研究員として本学に戻り、天竜川・遠州灘を対象とした広域土砂管理に関する研究プロジェクトに携わりました。その中で行った沿岸域の地形モニタリング手法についての

研究成果を取りまとめ、2012年3月に学位を取得しました。専門は海岸工学ですが、その中でも沿岸の地形変化や物質輸送を解明するための環境モニタリングに関する研究を進めています。三河湾・表浜・浜名湖・豊川といった、本学の恵まれた立地と自然環境を活かしたフィールド調査・研究活動を通じて、学生にも有用な体験ができるような教育を行いたいと考えております。また、生活・経済の場が自然と近い豊橋は、防災力の面でも課題が見られます。津波や高潮に対する沿岸防災力の向上についても、研究・教育を通じて貢献したいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

## 教授 斉 藤 大 樹



2012年11月より建築・都市システム学系教授に着任致しました。出身は北海道伊達市、大学は宮城県仙台市の東北大学、その後、茨城県つくば市の独立行

政法人建築研究所に移り、さらに愛知県豊橋市へと南下を続けています。前の職場である建築研究所では、上席研究員として組積造から超高層まで建築物の耐震問題に広く関わってきました。

建築研究所という組織は、政府系の機関として社会の要請に迅速に答える義務があります。海外からの技術協力の要請にも対応しなければいけません。その関係で、海外で技術指導をする機会も多く、とくに東欧

のルーマニアにはJICA専門家として2年8か月ほど滞在し、ルーマニア国立地震防災センターの設立に関わりました。一方、国内では、長周期地震動に対する超高層建物の安全性に関して解析と実験の双方から取り組んできました。2006年に開発した大ストローク振動台は、超高層の室内の揺れを再現できる世界で唯一の振動台として、当時はテレビや雑誌等にしばしば取り上げられました。

建築研究所にいたおかげでいろいろな経験ができましたが、一方で、深く課題を掘り下げて辛抱強く研究を続ける機会があまりありませんでした。今回、教授として豊橋技術科学大学に迎えて頂き、これまで培ってきた人脈と経験を活かして社会に貢献できる研究成果を上げるとともに、国際的な視野をもった学生を育てたいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 山田聖志先生のご逝去について

系長 松 本 博

長年、本学で教育・研究に尽力された山田聖志先生が3月6日にご逝去されました。この同窓会報で、同窓生の皆様に大変悲しいご連絡をしなくてはならないことが残念でなりません。

先生は、東北大学工学部建築学科でご勤務の後、平成2年4月に豊橋技術科学大学・建設工学系助教授として着任され、平成18年に教授に昇任されました。この間、教育面では建築構造力学ほかの建築学の基幹科目を担当され、多くの優秀な学生を輩出されました。その功績が認められ、平成17年度「第1回教育特別貢献賞」を受賞されました。

研究面では、シェル・空間構造分野の先進的な研究を数多く実施され、その業績が高く評価され、平成12年度に日本建築学会 学会賞（論文賞）をはじめ多くの賞を受賞されました。日本建築学会、土木学会、米国土木学会、国際シェル空間構造学会など多くの学会に所属され、各種委員会委員長などの要職を務めてこられました。最近では新しい素材であるFRPの構造部材への応用や光ファイバーを用いた構造物のヘルスマ

ニタリングに関する先端的な研究を精力的に実施され、強化プラスチック協会 協会賞を3度受賞されるなど、国内外から注目されていました。

大学および系の管理・運営に関しては、平成19年度から2年間、大学院機械・構造システム工学専攻主任として同専攻をとりまとめ、同じく平成19年度から3年間、建設工学系の系長として専攻および系をとりまとめられ、平成22年度の大学再編で改組された建築・都市システム学系の礎を築かれました。また、平成24年度からは教務担当学長補佐としての大学運営、同じく24年度から安全安心地域共創リサーチセンターのセンター長としてセンターの活動・運営にご尽力され、先日3月3日に発足した東海地区にある6つの国立大学による「東海圏減災研究コンソーシアム」創設の中心メンバーとして、今後のご活躍が大いに期待された矢先でした。

ここに、山田聖志先生の在りし日の面影を偲び、先生のご功績をたたえ、安らかな永眠をお祈りいたします。



## 近況報告

平成 24 年度は新しく 2 名の先生が着任されましたので、ご紹介します。



### 新任教員より

講師 **Ryan Eugene**

I officially became a member of staff at Toyohashi University of Technology (TUT) on April 1st 2012. I had been working for the previous five years as a member of the English and Information Science Department of Nagasaki Junshin Catholic University.



The biggest change in coming to TUT was that I moved from a school where more than 90% of the students were female to one where almost the opposite was true. I heard horror stories that engineering students didn't care about English and were not motivated in class. This point I discovered to be untrue, in fact the students at TUT turned out to be very serious about their English, and seemed to understand well how important it will be for their future lives and careers.

I moved to Japan in 1994, and since that time I have worked at every level of education, from

kindergarten to mature students. Although my daily work is teaching university level English, my area of specialization is in teacher training for elementary school level English. Since moving to TUT I have decided to further specialize by focusing on special needs education for children on the Autistic Spectrum. In my opinion this is an area where Japanese education is underdeveloped, and there would appear to be a strong need for more specialists.

I am a strong believer that English skills develop most effectively when used in real situations. Accordingly I am happy to be involved in TUT's student exchange programs with other Asian countries. I have helped the students to prepare for academic presentations in English, as well as the conversational skills to make new friends and work as a team across cultural boundaries. I try to extend this philosophy by opening up my office to any students who want to use their lunch breaks practicing English. At the moment this takes up two lunchtimes a week, but I hope to increase this in the future.

Overall I am doing my best to make a positive contribution to both students and staff at TUT. I hope that I can be of service.



## 新任教員より

講師 笹尾 洋介

平成24年10月に総合教育院に着任いたしました。主に英語科目を担当いたします。京都大学で学部と修士を修了し、ニュージーランドのVictoria University of Wellingtonで博士課程を修了しました。私の専門とする応用言語学(英語教育学)は学際性に富む分野であり、言語学や教育学はもちろん、心理学や統計学といった関連諸分野の知見も総合的に活用しています。私は特に、語彙習得論、評価論、カリキュラム開発、文法指導の研究を行ってまいりました。博士研究では、外国語学習には語彙を増やすことが極めて重要な役割を果たすとの認識のもと、英語語彙習得の研究を行いました。

語彙習得に関しては、どれくらいたくさん知っている



かという量的側面と、どれくらい深く知っているか(例:正確な綴り、共起表現、使用域)という質的側面の両方が重要であるとされ、語彙知識の各側面を測定する種々のテストが考案され、妥当性の検証がなされてきました。しかしながら、これらのテストでは、学習者がより効果的に語彙学習を行うためにどのようにすればよいかかわからないという問題点がありました。そこで、私の博士研究では、「語彙学習能力」(vocabulary learning proficiency)という新たな概念を導入し、これを測定する2種類のテストの開発・妥当性の検証を行いました。これにより、学習者の語彙学習における問題点を診断し、より効率的に語彙学習が行えるよう手助けできることが期待されています。

博士課程在学中の3年間の留学生活で、様々な国からの留学生と触れ合う中で、やはり日本の技術力の高さを指摘する声を数多く聞きました。豊橋技術科学大学にて、世界に誇る技術を持つ人材育成の一端を担えることを大変に誇りに思っております。英語科目を担当させていただく際には、最新の研究成果をできる限り授業に還元し、少しでも学生の語学力の向上に貢献できれば幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 総合教育院教員一覧 (平成25年2月7日現在) (旧人文・社会工学系)

#### 【総合教育院】

総合教育院長：神野清勝

教授：氏平 明

大串達夫

加藤三保子

鈴木新一

浜島昭二

安田好文

山本 淳

准教授：相京邦宏

佐久間邦弘

中森康之

平松登志樹

山本 綾

吉村弓子

Levin David Michael

講師：笹尾洋介

Ryan Eugene

#### 【兼務教員】

教授：藤原孝男

宮田 譲

山口 誠

准教授：渋谷博幸

田村真奈美

林 孝彦

村松由起子



# 平成23年度 旧系同総会収支報告・事業報告

## 旧1系会計報告

### ■ 収入の部

項 目	金 額 (円)
前年度繰越金	5,493,786
利 息	553
収 入 合 計	5,494,339

### ■ 支出の部

項 目	金 額 (円)
会報発送費	127,195
アルバイト代	18,000
通信費	260
小 計	145,455
次年度繰越金	5,348,884
支 出 合 計	5,494,339

## 旧2系(豊友会)事務局から

### 平成 23 年度収支報告 (H23.4.1~H23.4.30)

#### ■ 収入の部

項 目	金 額 (円)
前年度繰越金	4,329,853
会費 (各系分配金)	0
普通預金利息	757
収 入 合 計	4,330,610

#### ■ 支出の部

項 目	金 額 (円)
会報等発送作業代	73,943
会報等発送代	171,120
次年度繰越金	4,085,547
支 出 合 計	4,330,610

### 豊友会事務局

〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1

豊橋技術科学大学 生産システム工学系内

FAX: 0532-44-6690

E-mail: admin\_2@alumini.tut.jp

URL: <http://www.alumini.tut.jp/dept2/>

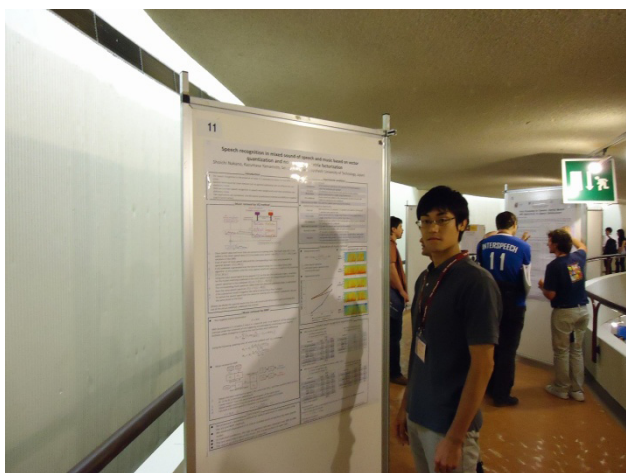
会 長	中川 真
副 会 長	安部 洋平
会計担当	前野 智美
会報担当	山田 基宏
名簿担当	今村 孝
ホームページ担当	野田 善之

## 旧3・4系同窓会事業報告

### 旧3・4系同窓会国際学会発表奨励金

平成17年度より、系内同窓会活動の活性化および大学への貢献事業の一環として、国際学会にて研究成果発表を行う旧3・4系出身（学部時）で電気・電子情報工学専攻もしくは情報・知能工学専攻博士前期課程の学生への奨励金助成（10万円）を行なって参りました。平成24年度分につきましては、現在公募中です。

なお、平成23年度に本奨励金に採択されました情報・知能工学専攻 中川研究室所属の博士前期課程2年の仲野翔一君より、初めての国際会議参加の感想をご報告いただきます。



### 国際会議参加報告

情報・知能工学専攻 仲野 翔一

私は2011年8月にイタリアのフィレンツェで開催された、音声言語情報処理の国際会議 INTERSPEECH に参加しました。私は、音源分離と音声強調のポスターセッションで、『Speech recognition in mixed sound of speech and music based on vector quantization and non-negative matrix factorization』というタイトルで発表を行いました。私は英語が苦手なため、また初めての国際会議ということもあって発表は非常に緊張してしまっており、説明や質疑応答があまりうまくできませんでした。それでも、相手の方が私にわかるようにゆっくり話してくれたり、何度か表現を変えて話してくれたりしてなんとか乗り切ることができました。INTERSPEECHは大規模な会議で世界中からとてもたくさんの人が参加していたので、英語でのコミュニケーション能力がもっとあればより深く素晴らしい議論ができたかなと思いました。

今回の経験を生かして研究に励んでいきたいと思えます。この度は奨励金に採択していただきましてありがとうございました。

## 旧3・4系同窓会平成23年度会計報告

#### ■ 収入の部

項目	金額(円)
平成22年度繰越金	7,332,632
平成23年度終身会費入金(1名)	10,000
預金利息	1,175
収入合計	7,343,807

#### ■ 支出の部

項目	金額(円)
平成23年度会報発送費	0*
平成23年度会報発送作業費	0*
国際学会発表奨励金	200,000
事務費	420
三志会準備金	2,000,000
小計	2,200,420
次年度繰越金	5,143,387
支出合計	7,343,807

\* 会報発送作業が平成24年度に遅延しましたので、次年度会報での事業報告にて改めてご報告致します。何卒ご了承下さい。

## 旧 5 系同窓会会計報告

昨年度の予算案になかった名入封筒は、同窓会報を郵送する封筒が足りなかったためです。謝礼に端数が生じているのは執筆者に郵送したためです。平成 24 年度の予算案が大幅に変更になっているのは、同窓会報が web 上の公開のみとなったため会報を送る必要が無くなり、代わりにハガキで公開の知らせを送ることが決まったためです。

■収入の部				■支出の部			
	平成23年度予算案	平成23年度決算	平成24年度予算案		平成23年度予算案	平成23年度決算	平成24年度予算案
前年度繰越金	2,084,964	2,084,964	1,865,666	会報郵送料	130,000	138,480	55,000
会費	0	0	0	タックシール作成費	10,000	10,000	10,000
預金利息	1,000	384	400	袋詰め作業代	25,000	22,950	11,000
小計	1,000	384	400	名入封筒	0	22,420	0
収入合計	2,085,964	2,085,348	1,866,066	仕分け作業代	16,000	15,728	0
				謝礼	14,000	10,720	0
				小計	195,000	220,298	76,000
				次年度繰越金	1,890,964	1,865,666	1,790,066
				支出合計	2,085,964	2,085,964	1,866,066

## 旧 6 系 (建設工学) 同窓会収支報告

建設工学同窓会 役員 谷 武 (13 期生)

新規入会者の同窓会費については、平成 21 年度から各系へ配分せず、全学同窓会の口座で管理しておりますので、分配金が 0 円になっております。昨年は大学の封筒を使って会報を送付しましたが、今年は同窓会の封筒を新たに発注して送付したため、発送作業費が昨年より上がりました。昨年はクロネコヤマトのメール便で会報を送付しましたが、転居された方の追跡が出来ないという問題があったため、今年は従来通り郵送に変更しました。そのため、同窓会報郵送費が上がりました。紙面による同窓会報の発送は今回が最後になります。今後は同窓会の HP (<http://www.alumni.tut.jp/>) に会報を掲載しますので、そちらをご覧ください。

### 平成 23 年 9 月 1 日から平成 24 年 9 月 1 日までの建設工学同窓会の収支決算

■ 収入の部		■ 支出の部	
項目	金額 (円)	項目	金額 (円)
残金 (平成 23 年 9 月 1 日現在)	2,028,818	全学同窓会報発送作業等費用	72,464
全学同窓会からの会費の分配金	0	全学同窓会報郵送費用	171,605
預金利息	241	小計	244,069
収入合計	2,029,059	残金 (平成 24 年 9 月 1 日現在)	1,784,990
		支出合計	2,029,059

## 旧7系(知識情報工学系)同窓会収支報告(H23年度)

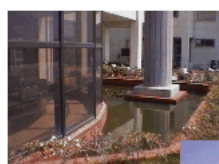
### ■ 収入の部

項 目	平成23年度決算
前年度繰越金	4,963,184
会 費	0
預金利息	793
収 入 合 計	4,963,977

### ■ 支出の部

項 目	平成23年度決算
会 報 経 費	
会報発送費	87,940
会報発送作業費	29,778
原稿執筆御礼	14,000
Webページ作成補助	20,000
小 計	151,718
次年度繰越金	4,812,259
支 出 合 計	4,963,977

<http://www.alumni.tut.jp/dept7/>



### 豊橋技術科学大学 <同窓会> 知識情報工学系のホームページ



Toyohashi University of Technology  
Department of Knowledge-based  
Information Engineering

## 旧8系同窓会収支報告(H23年度)

(平成23年4月～平成24年3月分)

今年度は会報発送作業が4月以降にずれ込んだため、H23年度会報発送経費はゼロでした。

### ■ 収入の部

項 目	金 額 (円)
前年度繰越金	4,553,310
預金利息	1,170
収 入 合 計	4,554,480

### ■ 支出の部

項 目	金 額 (円)
小 計	0
次年度繰越金	4,554,480
支 出 合 計	4,554,480

# 第61回東海地区国立大学体育大会成績結果一覧

1 日 時 平成24年6月2日(土)・3日(日), 9日(土)・10日(日), 16日(土)・17日(日), 23日(土)・24日(日), 30日(土)  
7月1日(日), 14日(土)・15日(日), 16日(土)・17日(日), 29日(日)

2 場 所 三重県営総合競技場他19会場

3 幹事大学 三重大学

4 成 績

(男子)

競技種目	三重大		名古屋大		岐阜大		名工大		豊技大		静岡大		浜医大		愛教大		備 考
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1 陸上競技	5	4.0	4	5.0	3	6.0	6	3.0	7	2.0	2	8.0	8	1.0	1	10.0	
2 水泳	3	6.0	2	8.0	1	10.0	7	2.0	8	1.0	4	5.0	6	3.0	5	4.0	
3 硬式野球																	雨天中止
4 準硬式野球																	雨天中止
5 硬式テニス	3	6.0	1	10.0	5	2.5	2	8.0	5	2.5	5	2.5	4	5.0	5	2.5	5位以下は順位なし
6 ソフトテニス	3	5.0	/	/	2	6.0	4	4.0	7	1.0	5	3.0	6	2.0	1	8.0	
7 バスケットボール	2	5.0	/	/	3	4.0	6	1.0	4	3.0	1	6.0	/	/	5	2.0	
8 バレーボール	6	2.0	2	6.0	1	8.0	7	1.0	4	4.0	3	5.0	5	3.0	/	/	
9 卓球	5	3.0	1	8.0	4	4.0	7	1.0	6	2.0	2	6.0	/	/	3	5.0	
10 バドミントン	1	10.0	3	6.0	2	8.0	5	4.0	7	2.0	4	5.0	8	1.0	6	3.0	
11 サッカー	7	1.0	1	8.0	2	6.0	3	5.0	/	/	5	3.0	6	2.0	4	4.0	
12 ハンドボール	6	2.0	3	5.0	1	8.0	4	4.0	/	/	5	3.0	/	/	2	6.0	
13 柔道	5	2.0	1	8.0	2	6.0	4	4.0	5	2.0	5	2.0	/	/	3	5.0	5位以下は順位なし
14 剣道	5	2.0	2	6.0	1	8.0	5	2.0	5	2.0	3	5.0	/	/	4	4.0	5位以下は順位なし
15 空手道	5	4.0	4	5.0	6	3.0	7	2.0	8	1.0	1	10.0	2	8.0	3	6.0	
16 弓道	/	/	3	5.0	5	3.0	2	6.0	7	1.0	6	2.0	1	8.0	4	4.0	
17 体操	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	オープン競技
18 馬術	3	2.5	1	6.0	3	2.5	2	5.0	/	/	3	2.5	/	/	3	2.5	3位以下は順位なし
19 アーチェリー	4	1.5	1	5.0	3	3.0	/	/	/	/	4	1.5	/	/	2	4.0	
20 少林寺拳法	5	1.0	2	4.0	3	3.0	/	/	/	/	4	2.0	/	/	1	5.0	
合計得点		57.0		95.0		91.0		52.0		23.5		71.5		33.0		75.0	
男子順位		5		1		2		6		8		4		7		3	

(女子)

競技種目	三重大		名古屋大		岐阜大		名工大		豊技大		静岡大		浜医大		愛教大		備 考
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1 陸上競技	4	3.0	5	2.0	2	5.0	/	/	/	/	3	4.0	6	1.0	1	6.0	
2 水泳	6	1.0	3	4.0	2	5.0	/	/	/	/	5	2.0	4	3.0	1	6.0	
5 硬式テニス	2	5.0	4	3.0	1	6.0	/	/	/	/	3	4.0	5	1.5	5	1.5	5位以下は順位なし
6 ソフトテニス	1	5.0	/	/	3	3.0	5	1.0	/	/	2	4.0	/	/	4	2.0	
7 バスケットボール	4	1.0	/	/	2	3.0	/	/	/	/	1	4.0	/	/	3	2.0	
8 バレーボール	/	/	4	3.0	1	6.0	/	/	/	/	3	4.0	5	2.0	2	5.0	
9 卓球	2	5.0	5	2.0	1	6.0	4	3.0	/	/	3	4.0	/	/	6	1.0	
10 バドミントン	5	3.0	2	6.0	4	4.0	6	2.0	/	/	1	8.0	3	5.0	7	1.0	
12 ハンドボール	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	オープン競技
13 柔道	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	オープン競技(団体戦成立せず)
14 剣道	3	3.0	4	2.0	5	1.0	/	/	/	/	2	4.0	/	/	1	5.0	
15 空手道	5	2.0	1	6.0	6	1.0	/	/	/	/	2	5.0	4	3.0	3	4.0	
16 弓道	/	/	4	4.0	2	6.0	5	3.0	/	/	1	8.0	3	5.0	6	2.0	
17 体操	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	オープン競技
19 アーチェリー	2	3.0	/	/	3	2.0	/	/	/	/	/	/	/	/	1	4.0	
合計得点		31.0		32.0		48.0		9.0		0.0		51.0		20.5		39.5	
女子順位		5		4		2		7		8		1		6		3	

# 平成23年度 卒業・修了者の就職先一覧 (50音順)

平成24年12月1日現在

No	就 職 先	M	B	D
1	㈱ AIHO	2		
2	㈱ CONY JAPAN	1		
3	㈱ CSI		1	
4	DKSH ジャパン(株)	1		
5	EIZO エンジニアリング(株)	1		
6	㈱ FCC	1		
7	㈱ GS ユアサ	1		
8	㈱ IHI	1		
9	JAXA (宇宙航空研究開発機構)	1		
10	JFE 電機(株)	1		
11	㈱ jig.jp	1		
12	KYB ㈱	3		
13	Liv.design (株)		1	
14	MHI エアロスペースシステムズ(株)	1		
15	NEC ソフト(株)	2		
16	NTN ㈱	1		
17	Perodua (マレーシア)	1		
18	㈱ Spece	1		
19	TANAKA ホールディングス(株)	1		
20	TCM ㈱		1	
21	Toyo-memory TechnologySdn-Bhd		1	
22	Universiti Tun Hussein Onn			1
23	VBL 研究員			1
24	Yahgee ㈱	1		
25	アーヘン応用科学大学(ドイツ) 客員研究員			1
26	㈱アイ・エイチ・アイマリンユナイテッド	1		
27	愛知製鋼(株)	1		
28	アイカ工業(株)	1		
29	㈱愛三工業	1		
30	㈱青山製作所	1		
31	独立行政法人 国立秋田工業高等専門学校			1
32	商人ねっと(株)		1	
33	旭硝子(株)	1		
34	㈱アズ	1		
35	㈱あすかインターナショナル	1		
36	アスモ(株)	1		
37	アツミ電気(株)	1		
38	㈱アルプ	1		
39	アンテナ技術(株)	1		
40	㈱石実メッキ工業所	1		
41	出光興産(株)	1		
42	イトモル(株)		1	
43	井上金属工業(株)	1		
44	イビデン(株)	1		
45	㈱今仙電機製作所	1		
46	イリソ電子工業(株)	1		
47	㈱インターネットイニシアティブ	2		
48	㈱インテリジェントウェア	1		
49	㈱ウッドフレンズ	1		
50	㈱浦野設計	1		
51	㈱エイ・ダブリュ・エンジニアリング	1		
52	㈱エクシード	1		
53	㈱エコム	1		
54	㈱エステム	1		
55	エヌ・ティ・ティ・アドバンステクノロジー(株)	1		
56	エヌ・ティ・ティ・データシステム技術(株)	1		
57	㈱荏原エリオット	1		
58	㈱荏原製作所	1		
59	㈱エム・テック		1	
60	オーエスジー(株)	3		
61	オークマ(株)	1		
62	㈱オーディオテクニカ	1		
63	㈱大林組	2		
64	㈱大本組	1		
65	沖繩電力(株)		1	
66	㈱小野測器	1		
67	オムロン(株)	1		
68	㈱オンワード技研	1		
69	鹿島建設(株)	1		
70	片山ナルコ(株)		1	
71	門真市		1	
72	㈱カネボウ化粧品			1
73	川崎重工業(株)	3		
74	関西電力(株)	1		
75	キムラユニティー(株)	1		
76	㈱キャラクター	1		
77	九州電力(株)	1		
78	京セラ(株)		1	
79	京都市		1	
80	旭光精工(株)	1		
81	㈱吉良紙工	1		
82	㈱クエスト	1		

No	就 職 先	M	B	D
83	久野金属工業(株)		1	
84	倉敷紡績(株)	1		
85	㈱栗本鐵工所	1		
86	黒崎播磨(株)	1		
87	㈱ケイ・アイ研究所	1		
88	㈱ケーヒン	1		
89	㈱小糸製作所	1		
90	㈱構造計画プラス・ワン	1		
91	宗教法人 幸福の科学		1	
92	㈱神戸製鋼所	2		1
93	国土交通省		1	
94	㈱コナミデジタルエンタテインメント	1		
95	㈱小林製作所	1		
96	コベルコ建機(株)	1		
97	コマツNTC(株)	1		
98	㈱小松製作所	2		
99	㈱コンテック	1		
100	㈱近藤製作所	2	1	
101	㈱サカキバラコーポレーション	1		
102	㈱笹野空間設計	1		
103	三共技研工業(株)	1		
104	㈱三五	3	1	
105	㈱シーアールイー	2		
106	㈱ジーエス・ユアサコーポレーション	1		
107	シーケー金属(株)	1		
108	㈱シーテック	1		
109	㈱ジェイ・パワーシステムズ	2		
110	ジェイアール東海コンサルタンツ(株)	1		
111	ジェイアール東海建設(株)	1		
112	㈱鹿野製作所		1	
113	㈱シグマ	1		
114	四国電力(株)	2		
115	㈱システック井上	1		
116	シナノ(株)	1		
117	㈱島津製作所	1		
118	清水建設(株)	1		
119	㈱シャルドネ	1		
120	昭和電工(株)	1		
121	シロキ工業(株)	1		
122	㈱新来島豊橋造船	1		
123	㈱シンコー		1	
124	新日鐵エンジニアリング(株)	1		
125	新日本製鐵(株)	2		
126	シンフォニアテクノロジー(株)	3		
127	新明和ソフトウェア(株)		1	
128	信和化工(株)	1		
129	㈱スクロール	1		
130	須坂市役所		1	
131	スズキ(株)	6		
132	スタンレー電気(株)	1		
133	ストライド(株)	1		
134	住友金属工業(株)	1		
135	住友電気工業(株)	2		
136	住友電工情報システム(株)	1		
137	住友電装(株)	2	1	
138	セイコーエプソン(株)	6		
139	㈱セック	1		
140	セントラル硝子(株)	2		
141	全日本空輸(株)	1		
142	ソーバル(株)	1		
143	ソニー(株)	1		
144	ソニーイテムシーエス(株)	1		
145	ソネットエンタテインメント(株)	1		
146	㈱第一システムエンジニアリング	2		
147	大栄産業(株)	1		
148	ダイコト通産(株)		1	
149	大成建設(株)	1		
150	大同特殊鋼(株)	1		
151	大同メタル工業(株)	1		
152	大日本印刷(株)	3		
153	大平洋金属(株)	1		
154	大豊建設(株)	1		
155	大陽日酸(株)	1		
156	大和ハウス工業(株)		1	
157	タカノギケン(株)		1	
158	高松建設(株)	1		
159	㈱竹中工務店	1		
160	㈱玉家建設	1		
161	㈱タンケンシーラーセコウ	2		
162	ちばぎんコンピューターサービス(株)	1		
163	中越合金鋳工(株)		1	
164	医療法人社団 中央歯科医院		1	

No	就 職 先	M	B	D
165	中外製薬工業(株)		1	
166	中京油脂(株)	1		
167	中国広州有色金属研究院			1
168	中部ガス(株)	1		
169	中部テレコミュニケーション(株)	1		
170	中部電力(株)	3		
171	重慶科技学院			1
172	チヨダウーテ(株)	1		
173	千代田化工建設(株)	2		
174	(株)テクノア	1		
175	鉄建建設(株)	1		
176	鉄道情報システム(株)	1		
177	デュプロ精工(株)	1		
178	電源開発(株)	1		
179	(株)デンソー	3		
180	(株)デンソークリエイト	1		
181	天龍製鋼(株)	1		
182	東海インプル建設(株)	1		
183	東海交通機械(株)	1		
184	東海高熱工業(株)	1		
185	東海ゴム工業(株)	1		
186	東海旅客鉄道(株)	3		
187	東鐵興業(株)	1		
188	国立大学法人東京工業高等専門学校			1
189	東京コンピュータサービス(株)	1		
190	(株)東芝	3		
191	東芝ソリューション(株)	1		
192	東邦テクノウム(株)	1		
193	東北管区警察局	1		
194	東北電力(株)	1		
195	東洋鋼鈹(株)	1		
196	東洋紡績(株)	1		
197	トータルアシストプラン(株)	1		
198	徳島県庁	1		
199	旬トコロ電気		1	
200	戸田建設(株)	1		
201	凸版印刷(株)	1		
202	トビー工業(株)	1		
203	苫小牧市役所	1		
204	トヨタ自動車(株)	3		
205	(株)豊田自動織機	2		
206	トヨタテクニカルディベロップメント(株)	2		
207	トヨタ紡織(株)	1	1	
208	豊橋技科大	1		3
209	豊橋飼料(株)	1		
210	(株)豊橋設計	1		
211	(株)ドワンゴ			1
212	仲山鉄工(株)		1	
213	名古屋製酪(株)		1	
214	国立大学法人名古屋大学	1		
215	那覇市消防本部		1	
216	(株)ナビタイムジャパン	1		
217	(株)ニートレックス	1		
218	西日本電信電話(株)	1	1	
219	西日本旅客鉄道(株)	1		
220	ニチアス(株)	1		
221	ニチコン(株)	1		
222	(株)ニチレイフーズ	1		
223	日産自動車(株)	1		
224	(株)ニッセイ	1		
225	日鉄環境エンジニアリング(株)	1		
226	(株)日鐵物流		1	
227	(株)ニデック	2		
228	ニプロ(株)		1	
229	日本圧着端子製造(株)		1	
230	(株)日本ガイシ	1		
231	日本学術振興会 研究員			3
232	日本機械保線(株)	1		
233	(独) 日本原子力研究開発機構	1		
234	日本光電工業(株)	1		
235	日本システムウェア(株)	1		
236	(株)日本テクニード	1		
237	日本電気(株)	1		
238	日本電信電話(株)	1		
239	日本特殊塗料(株)	1		
240	日本ハム(株)	1		
241	(株)ニューテック	1		
242	(株)任天堂	1		
243	(株)ノイズ・アーキテクト	1		
244	ノックス電子(株)	1		
245	(株)バイオニアFA	1		
246	(株)ハイテック	1		
247	(株)ハウテック	1		
248	公立はこだて未来大学			1
249	(株)進池設計	1		
250	(株)長谷工コーポレーション	1		
251	八戸圏域水道企業団		1	
252	(株)バッファロー	1		

No	就 職 先	M	B	D
253	パナソニックアドバンステクノロジー(株)	1		
254	パナソニックエコシステムズ(株)	1		
255	ハノイ工科大学			1
256	浜松市	1		
257	浜松ホトニクス(株)	1		
258	半田重工(株)	1		
259	バンドン工科大学	1		
260	(株)ビー・ユー・ジー		1	
261	東日本旅客鉄道(株)	2		
262	(株)日立アドバンスデジタル	1		
263	(株)日立エンジニアリング・アンド・サービス	1		
264	日立オムロンターミナルソリューションズ(株)	1		
265	日立化成工業(株)	1		
266	日立工機(株)	1		
267	(株)日立産機システム	1		
268	(株)日立システムズ	1		
269	(株)日立情報制御ソリューションズ	1		
270	日立情報通信エンジニアリング(株)	2		
271	(株)日立製作所	1		1
272	日立造船(株)	3		
273	(株)日立ソリューションズバリュー	1		
274	(株)日立ハイテクノロジー	3		
275	(株)日立メディコ	1		
276	(株)ヒミカ	2		
277	ビューローベリタスジャパン(株)	1		
278	福井鐵工(株)		1	
279	(株)富士カーボン製造所		1	
280	藤倉航装(株)	1		
281	フジクリーン工業(株)	1		
282	富士ゼロックス(株)	2		
283	富士通(株)	1		1
284	(株)富士通ゼネラル	1		
285	富士通(株)	1		
286	富士発條(株)		1	
287	(株)フジインコーポレーテッド	1		
288	(株)フセラシ		1	
289	プライムアース EV エナジー(株)	1		
290	(株)フリーダム		1	
291	(株)ブリヂストン	1		
292	ブリヂストンソフトウェア(株)	1		
293	古河スカイ(株)	2		
294	古河電気工業(株)	2		
295	ブレインシール(株)		1	
296	(株)フロンティア	1		
297	ベガサスミシン製造(株)	1		
298	(株)ベッセル	1		
299	(株)ベルソニカ	1		
300	豊和食品(株)		1	
301	(株)堀場テクノサービス	1		
302	本田技研工業(株)	1	1	
303	マツダ(株)	1		
304	丸三金属(株)	1		
305	(株)ミクシィ			1
306	みずほ情報総研(株)	1		
307	三井共同建設コンサルタント(株)	1		
308	三井造船(株)	1		
309	(株)ミットヨ	1		
310	三菱自動車工業(株)	3		
311	三菱重工業(株)	1		
312	三菱電機(株)	4		
313	三菱電機エンジニアリング(株)	3		
314	三菱電機情報ネットワーク(株)	1		
315	三菱電機メカトロニクスソフトウェア(株)	1		
316	(株)南日本情報処理センター	1		
317	(株)未来技術研究所	1		
318	(株)村田製作所	1		
319	(株)メイテック	1		
320	(株)メイホーエンジニアリング	1		
321	(株)メディアラボ	1		
322	矢崎総業(株)	3		
323	矢作建設工業(株)	1		
324	学校法人 山梨英和学院			1
325	ヤマハ(株)	1		
326	ヤマハ発動機(株)	2		
327	ヤマハモーターエンジニアリング(株)	2		
328	ヤマハモーターソリューション(株)	1		
329	(株)ユースン精機	1		
330	ルネサスエレクトロニクス(株)	1		
331	(株)レジェンド・アプリケーションズ	1		
332	レシップホールディング(株)	2		
333	ローム(株)	1	1	
334	ローム浜松(株)	1		
335	ロックペイント(株)	1		
	小 計	354	48	22
	合 計			424

# 同窓会事務局より会員の皆様へ

## ご 挨拶

同窓会会長（旧4系—情報工学 1期） 高 嶋 孝 明

昨年にかけて、豊橋技術科学大学開学 35 周年記念事業や高等専門学校制度設立 50 周年式典などが開催されました。1950 年台後半の日本の著しい経済成長を支えるための技術者養成という産業界からの要請に応じて 1962 年に高専制度が設立、さらに、実践的・創造的な能力を備え指導的技術者の要請を目的として 1976 年に技術科学大学が設置。これらの日本の技術創造立国を支えてきた新しい教育制度が、一つの節目を迎えた年であったと言えると思います。

私の出身校の岐阜高専電気工学科でも、昨年 5 月に第一期からの全卒業生での合同クラス会が開催され 200 名近くが集い、旧友や恩師と再開して懐かしいひとときを過ごしました。中でも圧巻だったのは、恩師の熱血基調講演。当時の講義そのまま口から泡を飛ばし、高専設立時期の思い出から卒業生への文句と檄を飛ばす、時間無視で司会者が止めに入ってもまだ続く。懐かしい 40 年近い過去の授業の場に舞い戻ることが出来たとともに、この熱意が卒業生全員に注入されていたのだと改めて感じさせられました。

日本を取り巻く環境の変化は著しく、厳しい環境を生き抜くために企業は変革を迫られ、社員も過酷な要求が容赦なくつきつけられます。「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるわけでもない。唯一生き残るのは、変化できる者だけである」（チャールズ・ダーウィン）。それには「変化し続けるために持たなければいけない軸足」と「どんな変化に対しても揺るがない軸足」の両方が必要です。それらを備えた人材育成に向けて、高専機構・豊橋技科大・長岡技科大の三機関が連携し、次の 50 年 100 年に向けた大きな変革が始まろうとしています。それには企業連携も必須であり、同窓会と私たち卒業生はその一翼を担う義務があり、それを期待されるものと思います。

これらの変化を知るためにも、ぜひ皆様ご自身から、大学の変革やそれを取り巻く環境の情報を入手して関心を持ってください。大学のホームページでオンラインマガジンの登録、大学の公式 Facebook に「いいね」などは、すぐに出来る第一歩です。同窓会の Facebook グループページも作ってみましたが、まだうまく活用できていませんので皆様の意見や協力をいただけると嬉しいです。同窓会報も、今回から電子メディアのみに移行しました。当面は、会報発行のお知らせと連絡先把握のために葉書の郵送を行います。メールアドレスを登録頂いて、それを活用した情報発信、更には相互の情報交流を増やして行きたいと考えています。

### 豊橋技科大関連 URL

- |                                |   |
|--------------------------------|---|
| ■ 広報誌「天伯」オンラインマガジン登録           | <a href="http://www.tut.ac.jp/tempaku/">www.tut.ac.jp/tempaku/</a>                            |
| ■ 公式 Facebook ページ              | <a href="https://www.facebook.com/toyohashi.tech">www.facebook.com/toyohashi.tech</a>         |
| ■ 公式 Twitter (@Toyohashi_Tech) | <a href="https://twitter.com/Toyohashi_Tech">twitter.com/Toyohashi_Tech</a>                   |
| ■ 同窓会 Facebook グループ            | <a href="https://www.facebook.com/groups/TUT.Alumni/">www.facebook.com/groups/TUT.Alumni/</a> |



..... 同窓会事務局より会員の皆様へ .....

## 同窓会総会開催のご案内

同窓会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、同窓会では、4年おきに同窓会定期総会を開催しており、平成25年は第10回定期総会の開催年にあたります。開催日等につきましては、委任状を併せた開催通知とともに、皆様にお送りしますとともに、本Webページ等を通じてご案内いたしますので、よろしくご確認ください。皆様のご来場をお待ちしております。

## ..... 同窓会事業報告および予定（平成23年度～24年度） .....

### 1. 会報の発行

同窓会報第29号を平成24年3月に発行・発送しました。印刷部数は11,000部、発送・配布部数は10,320部、残りは会報担当、事務局および各系役員にて保管用ならびに予備としました。平成24年度の印刷は予定されておらずWebで公開・閲覧を予定しています。

### 2. 卒業記念パーティーの開催

平成24年3月23日に豊橋勤労福祉会館（アイブラザ豊橋）にて行われた大学院修了式・学部卒業式後に、同会館体育館において学友会との共催で卒業記念パーティーを開催しました。平成24年度（平成25年3月22日）も例年通り行う予定です。

### 3. 学生活動への援助

本学学生課との共同で学生活動援助を20団体、1個人に行いました。詳細は本文をご覧ください。

### 4. 懇親会、パーティー等交流活動開催の助成

本学同窓生が参加する懇親会、パーティー等の交流活動を支援しています。平成23年度は1団体、平成24年度は12月現在で5団体の助成を行いました。詳細は本文をご覧ください。なお、同窓生支援事業の詳細・申請方法はホームページ上 (<http://www.alumni.tut.jp/>) に記載されていますので、是非ご覧ください。

### 5. 役員会の開催

平成24年4月21日に、大学C棟402会議室にて役員会を開催し、昨年度の活動報告ならびに本年度の役員、活動予定などに関して話し合いました。なお、役員会の議事録はホームページ上 (<http://www.alumni.tut.jp/>) にて閲覧できます。

### 6. 榊学長との懇談

平成24年6月26日に、榊学長（本会名誉顧問）、稲垣理事、神野理事、辻理事、本会の高嶋会長、稲田副会長、今村事務局担当との懇談を行い、大学の現状と将来展望などについて意見交換を行いました。

### 平成24年度同窓会役員（平成24年10月現在）

会 長：高嶋 孝明（日本アイ・ビー・エム(株)）

副 会 長：山本 一公（豊橋技術科学大学情報・知能工学系（旧情報工学系））、

稲田 亮史（豊橋技術科学大学電気・電子情報工学系（旧電気・電子工学系））

事 務 局：安部 洋平（豊橋技術科学大学機械工学系（旧生産システム工学系））

機械工学系	（1系 事務局担当、 総会・役員会担当）	感本 広文、関下 信正、戸高 義一、安部 洋平、 今村 孝、山田 基宏、前野 智美、田崎 良佑
電気・電子情報工学系	（2系 会計担当）	稲田 亮史、村上 義信、河野 剛士、高木 宏幸、 田上 英人、秋田 一平
情報・知能工学系	（3系 HP, ML 担当）	山本 一公、加藤 博明、山田 実
環境・生命工学系	（4系 会報担当）	佐藤 裕久、栗田 弘史、安田 八郎
建築・都市システム学系	（5系 名簿、援助活動担当）	谷 武、松本 幸大
名 誉 顧 問	豊橋技術科学大学学長	榊 佳之

\* 各系役員へのメールは、admin\_#@alumni.tut.jp # に系番号を入れて下さい（1系なら admin\_1@alumni.tut.jp）

## 会費納入のお知らせ

本会の会費は、平成4年12月から終身会費制となりました。つきましては、平成5年3月以降の卒業・修了生で入会費(5,000円)または、終身会費(10,000円)が未納の方は、該当する系の振込先へ納入ください。よろしくお願いいたします。

**旧1系:** 三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 791348  
加入者名 豊橋技術科学大学第1工学系同窓会

**旧2系:** 三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 773671  
加入者名 豊友会

**旧3系:** 三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 884432  
加入者名 豊橋技術科学大学3・4系同窓会

**旧4系:** 三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 884432  
加入者名 豊橋技術科学大学3・4系同窓会

**旧5系:** 三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 791362  
加入者名 物質工学系同窓会

**旧6系:** 三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 813330  
加入者名 建設工学同窓会

**旧7系:** 三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 884420  
加入者名 豊橋技術科学大学7系同窓会

**旧8系:** 三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 884418  
加入者名 豊橋技術科学大学8系同窓会

## 電子メールアドレスの登録のお願い

同窓会報の発行や同窓会からの案内を電子メールでお伝えする予定です。電子メールのアドレス登録はホームページ上(<http://www.alumni.tut.jp/>)の住所変更用フォームを利用して手続きができますのでご利用下さい。

同窓会事務局では、下記の個人情報管理ポリシーに基づき、同窓会員の皆様の個人情報の安全管理に努めております。同窓会名簿のより一層の充実にご協力をお願いいたします。

## 同窓会 個人情報管理ポリシー

- ・同窓会員の個人情報は、担当の同窓会役員が責任を持って管理します。
- ・個人情報の開示依頼があった場合には、依頼者の身元および依頼理由を確認し、必要とする情報のみを開示します。なお、原則として、同窓生および大学関係者以外には開示しません。

※ 個人情報の非開示は削除をご希望の方は、各系役員または同窓会事務局までご連絡下さい。

## 同窓会報への広告

掲載広告を募集しております。詳しくは同窓会事務局までお問い合わせ下さい。なお、広告によって発生したトラブルなどにつきましては、同窓会では一切の責任を負いません。

# ＊豊橋技術科学大学同窓会会則＊

## 第1章 総則

第1条 本会は、豊橋技術科学大学同窓会と称する。

第2条 本会は、本部を豊橋技術科学大学内に置く。

第3条 本会は、会員相互の親睦を図り、豊橋技術科学大学の発展に寄与することを目的とする。

## 第2章 事業

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 会員名簿の発行
- (2) 会報の発行
- (3) 総会の開催
- (4) その他、本会の目的を達成するために必要とされる事業

## 第3章 会員

第5条 本会は、次の会員をもって組織する。

- (1) 正会員 豊橋技術科学大学にかつて学籍を置いた者
  - (2) 準会員 豊橋技術科学大学に現在学籍を置いている者
  - (3) 特別会員 豊橋技術科学大学の現職及び退職教官
  - (4) 賛助会員 本会の目的を賛助する個人または法人で、理事会において推薦された者
- 2 本会会員は、その所在を変更の都度、本会に通知する義務を負う。

## 第4章 組織

第6条 本会に次の役員を置く。

- (1) 名誉顧問 (豊橋技術科学大学学長)
- (2) 会長 1名
- (3) 副会長 2名 (庶務担当)
- (4) 理事 原則として各系2名
- (5) 顧問 若干名

第7条 本会の役員の選出は、次の各号に定めるところにより行う。

- (1) 名誉顧問は、現豊橋技術科学大学学長とする。
- (2) 会長、副会長は、正会員のうちから理事会の推薦を得て会員の承認を得る。
- (3) 理事は、正会員のうちから理事会が推薦した者及び会長の委嘱による者とする。
- (4) 顧問は、役員経験者もしくは特別会員のうち理事会において推薦された者とする。

第8条 本会役員の任期は2年とする。但し留任は妨げないものとする。

第9条 本会の議決機関として理事会及び総会を開催する。

## 第5章 役員

第10条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

3 理事は、理事会において意見を述べ、事務局及び本会運営の責務を負う。

4 名誉顧問および顧問は、本会の運営について助言を与え、会長の要請に応じて本会の会務に出席し意見を述べることができる。

第11条 理事は、本会の次の具体的な業務の実行を担当する。

- (1) 庶務
- (2) 会計
- (3) 会報の編集、発行
- (4) 理事会、総会など重要な会務の開催及び召集
- (5) 会員名簿の管理

(6) 監査

(7) その他、本会の事業全般

2 各業務責任者は理事が担当し、業務遂行する。

## 第6章 理事会

第12条 理事会は、第6条に定められた役員により構成される。

第13条 理事会は、会長の要請により庶務担当が開催の責務を負う。

第14条 理事会は次の事項を審議する。

- (1) 本会の事業の運営に関する事項
- (2) 事業報告及び決算報告
- (3) 事業計画案及び予算案
- (4) 賛助会員の推薦に関する事項
- (5) その他、本会の運営に関する議案

第15条 理事会の議決は、理事会に出席している役員の過半数の賛成を必要とし、可否が同数のときは、議長が決める。理事会の議長は会長が務める。理事会に欠席した役員の議決は、出席している役員の総意に委ねたものとみなす。

## 第7章 総会

第16条 総会は、定期総会と臨時総会とし、会長が召集する。

2 定期総会は、4年に1回開催することを原則とする。

3 臨時総会は、会長が、その必要を認めた時、開催する。

4 会長は、総会を召集するとき、事前に文書で正会員に通知しなければならない。

第17条 総会は次の事項を審議し、承認または議決する。

- (1) 会則の制定・改廃
- (2) 事業計画及び収支予算案
- (3) 事業報告及び収支決算案
- (4) その他、本会の運営に関し重要な事項

第18条 総会の議事は、出席正会員の過半数で決め、可否が同数のときは会長が決める。議長は、会長が務める。

## 第8章 会計

第19条 本会の運営に必要な経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。但し、必要に応じ、理事会での議決、総会での承認を得て臨時費を徴収することができる。

第20条 本会の正会費は、次のとおりとする。

- (1) 入会金 5,000円
- (2) 終身会費 10,000円

2 会費の納入は入学時に一括して行う。在学中は、準会員としての資格を得る。

第21条 既納の会費は原則として返納しない。但し、準会員が、卒業もしくは修了以前に学籍を離れる場合に限り、半年以内に請求があれば、返納する。その場合、会員資格を失う。

第22条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月末日に終る。

## 第9章 雑則

第23条 本会会則の改訂は、理事会の議決を経て総会の承認を必要とする。

第24条 本会会則施行に必要な事項は、理事会の議決を経て会長が決める。

## 付則

1 本会則は、平成4年12月19日の総会において会則改訂の承認を得て、平成4年12月20日から施行する。

2 平成4年度及び5年度在学生会は、第20条における会費の納入を卒業、修了時に一括して納入する。

# 同窓会平成 23 年度収支報告および平成 24 年度予算案

項 目	平成 23 年度予算案	平成 23 年度決算	平成 24 年度予算案
<b>■収入の部</b>			
入 会 金	2,000,000	1,785,000	2,000,000
会 費	4,000,000	3,570,000	4,000,000
預 金 利 息	10,000	2,617	10,000
会 報 広 告 費	80,000	0	80,000
同 窓 生 からの 寄 付	0	10,000	0
収 入 合 計	6,090,000	5,367,617	6,090,000
前 年 度 繰 越 金	17,740,603	17,740,603	9,776,851
合 計	23,830,603	23,108,220	15,866,851

<b>■支出の部</b>			
会 報 経 費	1,000,000	1,000,000	500,000
総 会 案 内 状 等 印 刷 費・ 連 絡 費	0	0	1,000,000
役 員 会 経 費 ( 役 員 手 当 )	65,000	27,000	65,000
庶 務 経 費	50,000	19,865	50,000
卒 業 記 念 パーティ 援 助 金	250,000	250,000	250,000
学 生 活 動 援 助 金	500,000	500,000	500,000
Web 関 連 経 費	53,130	53,130	0
卒 業 生 懇 親 会 開 催 援 助 *1	600,000	46,000	300,000
返 金 1 件 ( 重 複 納 金 に よ る )	0	15,000	0
新 系 対 応 準 備 金 *2	11,860,000	11,420,374	2,000,000
支 出 合 計	14,378,130	13,331,369	4,665,000
次 年 度 繰 越 金	9,452,473	9,776,851	11,201,851
合 計	23,830,603	23,108,220	15,866,851

\* 1 H23年度役員会にて実施承認

\* 2 学科再編対応事項として、2009年度以降の会費を新系対応準備金として管理。2012年度より終身会費の半額を新系対応準備金として積み立てることをH24年度役員会にて承認。

# 学生活動への援助報告

現在同窓会では、同窓会活動の活性化・効率化を目的に大学との連携強化を進めております。その一環として、2006年度より大学運営委員会の一つである学生生活委員会と共同で「課外活動活性化経費援助」を行っています。同窓会では会員の皆様のご理解、ご協力を賜りながら、今後も学生活動に対して積極的な援助を続けたいと考えています。

## 技科大祭実行委員会

建築・都市システム学課程 3年 茶木 寿志

この度は、私たち技科大祭実行委員会に課外活動活性化経費のご支援をしていただき、誠にありがとうございます。技科大祭実行委員会一同、心よりお礼申し上げます。

今回、同窓会の皆様にご支援いただいた資金は、技科大祭で使用されるバックパネルの製作材料の購入資金として使わせていただきました。このバックパネルとは、二日間を通してステージバックに飾られるもので、毎年、学生の中でデザインの募集を行い、それを元に実行委員会のメンバーが製作します。このバックパネルは、その年の技科大祭の色を表し、文字通り技科大祭の「顔」となってくれる重要なものです。

今年の技科大祭のテーマは「Step Up」です。このテーマには、技科大祭が今年度で第35回目の開催となったことで、一つの節目を迎えた技科大祭をこれまで以上のものにしようという思いが込められています。実際に今年の技科大祭では、例年のイベントに加えて“フリーマーケット”や昨年中止となってしまった“研究室公開”などの企画を増やしました。また模擬店などの数も増やし、例年よりも規模の大きい技科大祭を実現しました。それらの成果もあってか、今年度の技科大祭では二日間合わせて2400人近くのお客様にご来場いただきました。

最後に、同窓会の皆様のご支援、ご協力により、今年も無事に技科大祭を執り行えた事、重ねてお礼申し上げます。



## 弓道部

情報工学課程 4年 永井 裕人

この度は弓道部に支援して頂き、誠にありがとうございます。支援金は、弓の購入と道場の使用料に充てさせて頂きました。今年も大勢の新入生が入部したため弓が足りない状況でしたが、弓が増えたおかげで充実した練習を送ることが出来ました。部員を代表してお礼申し上げます。

弓道部は創部5年目という節目の年を迎えましたが、今年は歴代で一番成績を残すことが出来た年でした。東海地区国立大学体育大会では男子が個人4位、女子が個人優勝、中日新聞社主催の道場記念弓道大会では一般男子と一般女子の部でどちらも優勝と準優勝、豊橋市体育協会主催の市民スポーツ祭弓道大会では参段以下の部で準優勝と3位、他にも数多くの大会や審査で成績を残すことが出来ました。特に、東国体での上位入賞は創部以来初の快挙であり、部員の闘志に火をつけ、より熱心に練習するようになりました。

昨年、学内の弓道場建設計画が進展し、立派な安土を作って頂きました。しかし、部活動を行う設備としてはまだ整っておりません。部員の多くは十分な練習が出来ず、大会や審査に出ることなく卒業してしまいます。学内に弓道場が完成すれば、現在より良い環境で毎日練習することが可能となり、多くの部員が活躍出来ると考えられます。そのため、一刻も早い弓道場の完成を願っております。

弓道部は、同窓会の皆様の期待に応えられるよう練習に励みますので、今後ともご支援・ご協力の程宜しく願致します。



## 硬式野球部

電気・電子情報工学課程 2年 伊達 浩平

昨年に引き続き硬式野球部の活動をご支援していただき、ありがとうございます。現在は4年生6人、3年生9人、2年生2人、1年生1人の計18人で活動しています。練習は火・木・金曜日の放課後、土曜日の午後、日曜日の午前に行っています。

私たち硬式野球部は愛知大学野球連盟に加盟しており、春季、秋季とリーグ戦があります。6月には東国体もあります。今秋から部制が変わり、5部制から3部制へととなりました。現在は3部に所属しています。今年度の成績は、春季は5部リーグ6位、秋季は3部Aリーグ5位と、秋季では部制再編によりリーグ自体のレベルが高くなった中で順位を上げることができ、春季に比べると良い成績が残せました。

私たちは、3部リーグから2部リーグへ昇格することを一番の目標に取り組んでいます。授業の関係もあり、平日の練習は時間の限りや人数が揃わないこともあるため個人練習や基礎練習を中心に、休日は全体練習や実戦練習を中心に目標に向かって個々が高い意識を持ち練習に取り組んでいます。冬場などのオフシーズンにはリーグ戦をしっかりと戦いぬくための体を作るために、走り込みや筋トレなどの体力作りを中心に練習しています。またリーグ戦前にはオープン戦も積極的に行い、リーグ戦に向けて備えています。

今回の援助金は、主に連盟費に使わせていただきました。3部リーグから2部リーグへ昇格できるように高い意識を持って取り組みますので今後ともご支援の方よろしくお願い致します。



## 柔道部

機械システム工学課程 4年 多田 直人

この度は柔道部に援助していただき、誠にありがとうございます。部員を代表してお礼申し上げます。今回いただいた同窓会からの補助金は、昨年度より呼び寄せている講

師に対する謝礼金や、全日本柔道連盟の団体登録及び、個人登録に使用させていただく予定です。柔道の投げ込みという稽古において武道場の畳が固く、受け身をとると痛く、怪我をしてしまう可能性もあるため、今回の援助金により購入させていただき、投げ込み用マットを使用していく予定です。また、この大学の名前を背負うという形で、試合のときに使用する柔道衣の刺繍及びゼッケンを発注する予定です。

我々柔道部は、現在11名という少ない人数で活動しています。今年度は、毎週火曜日と金曜日の18:30~20:30と、月に一度、土曜日の15:30~17:30に講師をお呼びして活動を行ってきました。

今年度の出場した大会としては、東三河社会人柔道大会、東海地区国立大学体育大会があります。特に東海地区国立大学体育大会については主幹校ということで大会運営において苦勞した点もありましたが、部員たちが一丸となって運営をしてくれたおかげで、無事に大会を乗り切ることができました。また、大会成績においても、東三河社会人柔道大会では、男子2段団体の部3位、男子2段個人の部優勝、東海地区国立大学体育大会では個人の部で2位という成績を残すことができました。これもご支援してくれた結果だと存じております。

これからもより良い成績を残せるよう精進していく所存です。今回のご支援誠にありがとうございました。



## 模型部 (TuT)

機械工学専攻 1年 宮崎 悠

この度は、模型部 (TuT) を援助していただき、誠にありがとうございます。部員一同、心よりお礼申し上げます。我々模型部 (TuT) もおかげさまで3年目を迎える事が出来ました。今年は新入生にも恵まれ、現在は15名の部員で週2回の活動を行っております。今まではコンテストへの参加や部内コンペなどの活動を行ってきた我がサークルですが、今年からワンダーフェスティバルなどの大きなイベントにも参加するようになり、ますます活動を活発なものにしております。

今回援助していただいた物品は技科大祭における子供たち向けのプラモデル制作体験会に使用させていただきました。毎年好評をいただいているこの企画ですが、今年も例に漏れず、用意していたプラモデルはすべて子供たちに作ってもらえました。さらに去年の反省を生かし、今年からプリンタを導入しました。これにより、参加した子供と作ったプラモデルの記念写真を撮り、その場で印刷して渡すことが出来るようになりました。この試みもまた、参加して下さった親子ともに大変喜んでいただき、「モノづくりの楽しさ」を伝えることの手伝いが少しでもできたかと思えます。

3年目と言いましても他サークルに比べたらまだまだ生まれだてのようなサークルです。様々なことがいまだに手探りの状態ですが、これからも模型を通じて「モノづくりの楽しさ」を伝えていければと思っております。今後ともご支援のほどよろしくお祈りいたします。



## 建築サークル TYACC

建築・都市システム学専攻 2年 高松 亮太

豊橋技術科学大学建築サークル TYACC では、一昨年に発足したサークルです。建築設計や都市計画を学ぶ学生約40名が所属して、設計コンペティション参加や新城市鳳来寺での古民家再生、地元建築家の方を迎えて建築やまちづくりについて話し合う「ケンチクカフェ」というイベントなど様々な活動を提案し取り組んでいます。



活動の中の一つに、昨年起きた東日本大震災を受けて、今後東南海地震が起きると言われる東海地方の大学生として何か行動しようと考え、災害時に子ども達を守るシェルターとなるものを子ども達の手で制作してもらう『子ども達のためのシェルター「マイ・デコヘル」づくりWS』を行っています。昨年度は豊橋市教育委員会主催「子どもたちのための科学展」での豊橋技術科学大学「Jr.サイエンス講座」の講座の一つとしてWSを開催しました。

本年度は、水上ビルで行われる sebone アートイベントとの共同開催で行われた『豊橋技術科学大学建築作品展「技科展 2012」』にて、課外活動活性化経費の支援でWSを行うことができました。場所は名豊ビル地下1階、開催期間は8/31から9/2の3日間行い、約50名の子ども達がマイ・デコヘルを制作しました。普段は子ども達と接する機会がない学生が、子ども達のサポートをすることを通じて、ものづくりを行う楽しさを再確認することができたと思います。

## 国際交流クラブ

情報工学課程 4年 桜田 亮太

課外活動活性化経費を利用してバスをチャーターし、留学生と静岡まで企業見学に行きました。企業見学は毎年行なっているもので、留学生に日本の企業のことを知ってもらいたいということと、企業見学を通じて留学生と交流をすることを目的としています。昨年度は計23名(うち留学生15名)で、浜松のうなぎパイ工場と、掛川のヤマハグランドピアノ工場に見学に行きました。うなぎパイ工場ではうなぎパイ製作の一部工程及びビデオによる説明を、グランドピアノ工場ではピアノ製作の全行程に加え音階テストの工程も見学できました。グランドピアノ工場は英語の説明があったものの、うなぎパイ工場は日本語での説明しかなく、四苦八苦しながらの見学となりましたが、それが留学生と会話をするきっかけとなり、逆に良かったとも感じています。皆お土産でうなぎパイを買っていくなど見学は大好評で、帰りのバスの中では皆眠りに落ちていました。





この課外活動活性化経費は毎年利用させていただいており、毎年3ヶ月ほど前から企業へのアポなどの準備を始め、見学する企業の説明用しおりを作成するなど留学生に少しでも楽しんでもらえるよう工夫をしています。今年度も課外活動活性化経費を申請し、すでに企業見学の準備を始めていて、今年度はバンダイホビーセンターでガンプラの作成工程を見学しようと計画しております。

## おちゃのかい

### 建設工学課程 4年 大西 秀樹

この度は、課外活動活性化経費により‘おちゃのかい’に援助していただき、誠にありがとうございます。部員一同、心より御礼申し上げます。

‘おちゃのかい’では、毎週火曜日と金曜日に、二人の先生を招いて裏千家茶道の稽古を行っています。「豊橋技術科学大学の学生生活の中で、いつも稽古に来るということは難しいかもしれませんが、せっかく‘おちゃのかい’に入ったのだから、少しの間でも稽古に来られるときに来て、それぞれ何か掴んでいってください。」ということ先生はいつも仰ります。その言葉の通り、部員はそれぞれの想いで稽古に取り組み、それぞれ何かを掴んでいることと思えます。

年に一度、おちゃのかいでは豊橋公園内の三の丸会館におきまして「ふつうの茶会」を催しています。第二十一回を迎えます今年度は2012年9月22日に開催いたしました。ふつうの茶会では多くのお客様にお越しいただき、多くの方に支えられて‘おちゃのかい’があり、ふつうの茶会が開催できているということを実感いたしました。

支えて下さっている方々への感謝の気持ちを忘れず、部員一同、精進いたします。今後ともよろしく願いたします。



## ボランティア部

### 建築・都市システム学課程 3年 尾崎 秀彰

表浜 BLUE WALK 2012年の副リーダーをつとめさせて頂きました、豊橋技術科学大学学部3年建築・都市システム工学課程の尾崎秀彰です。

今回で6回目の活動となりましたが、活動期間中に大きな怪我や事故もなく、無事に終えることができました。そして今回の清掃では約540名の参加者ととも9日間で約3600kgものゴミを拾うことが出来ました。これもひとえに協力してくださっている皆様のおかげです。誠にありがとうございました。

支援して頂いた、包丁、クーラーボックス、プリンターのインクは、BLUE WALKを支えるのに、必須なものです。活動期間中、自炊をすることがほとんどなので、包丁はかなり重宝しました。また、浜では熱中症対策として水分補給のための休息を頻繁に行います。その際、クーラーボックスで冷えた水分を参加者に与えることができます。プリンターのインクは、協力してくださった方々へ活動報告書を配る際に使います。協力してくださっている方々が非常に多いので、プリンターのインクも必須でした。今回のご支援で、活動も成功しました。

今年よりはより地元のことを知って頂く、豊橋・田原が地元ではない参加者にも豊橋・田原の環境問題について知ってもらおうと、自然環境について学ぶ機会を多く設けました。BLUE WALKはただの一夏の思い出ではありません。このBLUE WALKで学んだことをそれぞれの参加者が家まで持って帰り、今後の生活に活かしてくれることと思います。

先にも書きましたが、BLUE WALKのような活動を毎年行えるのは、本当に皆様のお力添えのおかげです。来年の7回目の開催に向けて準備を進めていますので、ぜひ私たちの活動を応援して頂ければ幸いです。



## 自動車研究部

機械システム工学課程 4年 白木 翔平

自動車研究部に支援して頂、誠にありがとうございます。自動車研究部部員一同、心より御礼申し上げます。この度は真空ポンプとバイトを支援品として頂きました。真空ポンプについてはカーボン部品の製作にバイトは工場での金属部品の加工に使用させていただきます。

私たち自動車研究部は、全日本学生フォーミュラ大会に参戦するために日々活動しております。全日本学生フォーミュラ大会とは、学生が企画・設計・製作した小型レーシングカーで競技を行い、車の走行性能のほか、車輛コンセプト・設計・コスト審査等のものづくりの総合力を評価する大会です。授業からでは学ぶことのできない経験することで自動車技術並びに産業の発展・振興に資する人材を育成するという趣旨があります。今年開催された第10回大会には本校のコンセプトである Basic for Perfect に基づき製作した車輛で競技にのぞみました。大会では約20kmの耐久走行を行うエンディランス競技の直前にスロットルセンサーの故障に見舞われ出走があやぶまれましたがなんとかトラブルを解消し2年ぶりに完走することができました。全9種目で獲得した合計得点は416.59/1000点、総合順位は参加82チーム中31位という結果でした。

今シーズンの車輛の製作や大会で経験したことを今後の活動に活かしていければと思います。大会での上位進出を目標に皆様からのご支援に感謝し、たゆまぬ努力を続けて活動していきたいと思っています。今後ともよろしく御願ひ申し上げます。



## バレーボール部

機械システム工学課程 4年 鈴木 悠太

この度は、課外活動活性化経費によるご支援をいただき、ありがとうございます。

バレーボール部では、本年度新入部員が多く、部員数が大幅に増加したため、練習を円滑に行えるよう、ミカサ社製およびモルテン社製のバレーボールを3個ずつ購入させ

ていただきました。おかげさまで、部員全員で練習を行うのに十分なボールを確保でき、東海大学バレーボールリーグ戦春季大会にてリーグ2位・入れ替え戦勝利、および愛知大学バレーボールリーグ戦春季大会にてリーグ1位、ともに上位の部への昇格を決めました。

バレーボール部は現在、修士10人、学部生20人の計30人で活動しております。学部生が出場する大会である東海大学バレーボールリーグ戦・愛知大学バレーボールリーグ戦、修士が出場する大会である東国体、夏場に行われる4つのビーチバレー大会において良い成績を残すことができるよう、毎週火曜・木曜・土曜に体育館にて練習に励んでおります。本年度は既上記のとおり昇格を決定することができましたが、現在東海大学バレーボールリーグ戦秋季大会を戦っており、11月には愛知大学バレーボールリーグ戦秋季大会も控えている状況で、現在の部に残留・ひいては上位の部への昇格を目標として全員一丸となって練習に励んでおります。

課外活動活性化経費によるご支援をいただいた分、大会にてよりよい成績を残せるよう努力して参ります。今後共バレーボール部をよろしく御願ひいたします。



## バスケットボール部

機械工学課程 3年 當 銘 俊 貴

この度は、我々バスケットボール部へ御支援をいただき、ありがとうございます。部員一同、心よりお礼を申し上げます。バスケットボール部は、現在部員約30名で活動しております。皆様のご支援により、バスケットボールを購入させていただき、不自由ない充実した練習を送らせていただいております。今年の東国体は、悔しくも4位という結果に終わってしまいましたが、得られたものはそれ以上に大きく、日々技術・精神力を鍛え、汗を流しています。今年度の練習のキーワードは「よく話す」です。一見簡単に思えますが、失敗を自分の能力不足ととらえ、考え込む選手が多く、自分の意見を言うことが難しい現状でした。個々の能力だけではなく、コミュニケーション力、チームワークをより一層高めるため、互いをよく知り、よく考え

あうことを第一の目標にしています。

バスケットボール部は、これまでも卒業された先輩方より「バスケの技術」のみならず、「人間としての力」を育てていただきました。このよき伝統は今も自然と残り、部員に浸透しています。これからも、このよき伝統を守り、バスケットボールを通じて様々なことを学んでいきたいと考えています。これからも、我々の活動を温かく見守っていただけることを、部員一同心より願っております。



## 豊橋日曜学校

電気・電子工学課程 4年 井美 椋太

この度は、私たち豊橋日曜学校に援助していただき、誠にありがとうございます。部員一同心からお礼申し上げます。私たち豊橋日曜学校は月に一度、日曜日に豊橋市内に在住の知的障害を持つ子供たちとふれあうことを目的としたボランティア団体です。活動内容は、8月はキャンプ、10月は運動会、12月はクリスマス会、1月は餅つきなど、その月ごとにさまざまなレクリエーションを企画して子供たちとふれあっています。例えば2月のレクリエーションでは豊田市の旭高原元気村にお出かけして、人工雪の斜面でそり遊びを行いました。子供たちに普段の生活ではできないようなことを体験してもらうこと・子供たちにいつも笑顔でいてもらうことを目標に活動しています。援助金は、このようなレクリエーションを企画するための備



品・消耗品購入に使わせていただきました。活動は他大学(愛知大学・創造大学)と合同で行っています。卒業された先輩方の支えもあり、「日曜学校」という団体は今年で設立39周年を迎えることができました。この歴史を絶やすことの無いよう、子らからも精一杯活動していきたいと思

## ロボコン同好会

機械工学課程 2年 渡邊 大記

この度は、我々ロボコン同好会に、課外活動活性化経費より活動支援をして頂き、誠にありがとうございます。部員一同心からお礼申し上げます。

我々ロボコン同好会は、毎年主に「NHK 大学ロボコン」「ABU アジア・太平洋ロボットコンテスト」に参加し、優勝することを目標とした活動を行っています。

2012年に参加した「NHK 大学ロボコン」では、惜しくも優勝を逃してしまいましたが、去年に引き続き、ベスト8を修めることができました。

また、この大会の他にも昨年度から開催されている「とうロボ」に、今年も参加させて頂きました。この大会は技術の向上だけではなく、他大学との交流を深めていくことも目的とした、東海地区のロボコンです。この大会では今回、準優勝を修めることができました。

援助金はリポバッテリーと、そのバッテリーの充電器に充てさせて頂きました。お陰様で、ロボットの製作効率だけでなく、我々が最も重要としている、練習の効率が例年以上に向上すると考えております。

現在は、2013年6月に開催される「NHK 大学ロボコン2013」へ出場し、今年こそ優勝するための第一歩として、11月中旬に実施される一次選考へ向けて、学部生30人、修士7人、博士3人の計40人で活動しています。

昨年度優勝することのできなかつた悔しさをばねに、来年度の国内大会での優勝、および世界大会での優勝を目標として、今回ご支援頂いた御恩を忘れず、部員一同、精一杯尽力して参ります。ロボコン同好会の活躍にご期待ください。



## 武 道 部

機械工学課程 3年 重松 圭祐

私達武道部は、剛柔流空手道及び古武道の稽古を中心に活動しています。私達は稽古を通して、自分の身体の有効な使い方を身に付け、忍耐力を鍛え人格を養うことを目的としています。武道の稽古の基本的な事の一つに、決められた動作を繰り返す、というものがあります。これは普段から実践でき、武道部では道場での稽古も含め、日常の全てが稽古であると教えられています。

武道部では、毎年演武会を開催しています。第8回目となる今年のスローガンは、「文句なしの真っ向勝負」です。私達が普段稽古している空手や古武道の型、約束組手、板や瓦の試割りを披露しました。今年も多くの方がご来場して下さり、皆様からご好評を頂くことができました。演武会には、ご来場して下さった方たちに元気を分けるという目的の他に、武道部の稽古の場の一つという意味もあります。演武会のようなイベントを成功させるには、ご支援や広告など、地域の方達のご協力が必ず必要となります。そういったご協力のお願ひも、学生が主体となって行うことで、礼儀や感謝の心を身に付ける稽古となります。

この度のご支援は、演武会など、空手や古武道の型を披露する場で使用するマットを新調するために使わせて頂きます。このようなイベントが開けるのも、皆様のご支援のおかげと、大変感謝しております。部員一同、更に稽古に励み、次回の演武会はより良いものになるよう、精進して参ります。



## 軽 音 楽 部

知識情報工学課程 4年 大田 仁克

現在軽音楽部員が100名を超え、増々活動の幅が広がっており、年間通じて技科大内外問わずサークル活動を活発に行う事ができる団体へと成長しました。軽音楽部員が増える事は、サークルがよりエネルギッシュなものに成長すると同時に、やはり大人数である事から発生する運営上の負担も増えて参りました。これまでと比較して機材の使用時間が増えている事による機材の劣化、ライブ運営時に

おけるバンド毎のセッティングに要する時間など、部員の力のみで対処することが不可能な問題が明確になって参りました。そこで、この度申請させて頂いたデジタルミキサーを活用することにより、スムーズな運営、ライブ品質の向上などを見込んでおります。また、これまで使用していた機材を併用することで、機材をより長寿命で運用する事が可能になります。

大学内では、他サークルのイベントに軽音楽部の機材を活用したり、音響係としてのイベント参加などがあります。その際にも活用できるデジタルミキサーを支援していただいたため、これまで以上に軽音楽部外とのつながりを持った団体へと成長する事も期待しております。

実際に機材の運用開始は10月の技科大祭からとなります。技科大内で最大のイベントとなるライブであるため、機材を有効活用し、更に今後も使い続けていきます。

この度はご支援ありがとうございました。



## 吹 奏 楽 団

建設工学課程 4年 佐藤 錬

この度は吹奏楽団に御支援を賜り、誠にありがとうございます。団員一同、心より深くお礼申し上げます。課外活動活性化経費にて頂いた援助金では、ホルンを購入させて頂きました。

今年度は、新入生13名を迎え、総勢52名で活動しています。私たち吹奏楽団は「地域に根差す団」という団目標を掲げ、人々に音楽の楽しさを伝えるために、より幅広い演奏をしたいと思っています。団で所有していたホルンは経年により状態が悪く、今回の御支援で新しいホルンを購入して頂き、演奏の幅が広がり、さらには団活動の視野が広がりました。大変感謝しております。今年度の活動としては、毎年開催している定期演奏会をはじめ、地域の小学校や、高齢者施設、商業施設でミニコンサートを行ってきました。また、近隣の吹奏楽団との合同演奏会や、訪問演奏にも積極的に取り組んでいます。今年度からの新たな試みとして、団員が中学校へ出向き、楽器を直接指導するという活動も行っています。

今回ご支援いただいたこと、そして多くの方々に支えられて活動していることを忘れず、少しでも多く大学や地域のイベントに貢献できるように、団員一同精一杯活動を行っていきたいと思います。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



## トライアスロン部

エコロジー工学課程4年 沖見 卓哉

この度は私たちトライアスロン部へご支援いただき、ありがとうございました。部員一同、心よりお礼を申し上げます。

2012年度は待望の女子1人を含む13人の新生が入部し、総勢42名の大所帯となったトライアスロン部ですが、火曜日のラン練、金曜日のスイム練、土曜日のバイク練を通して、心身ともに鍛錬しております。その甲斐あってか、昨年度に続き東海北陸学生トライアスロン選手権にて上位を取め、1名が日本学生トライアスロン選手権（インカレ本戦）出場枠を獲得しました。また、トライアスロン未経験であった部員たちも練習を重ね、大井川港トライアスロン大会やトライアスロン伊良湖大会でトライアスロンデビュー、そして完走することができました。トライア



スロン以外にも、シマノ鈴鹿ロードレースやクラウンメロンマラソンなど各地の様々な大会に挑戦しています。

今回の課外活動活性化経費は、使用期限が切れていたヘルメットの買い替え、大会出場に必要なサイクルコンピューターやウエットスーツの購入、移動に必要な自動車ルーフキャリア用サイクルアタッチメントの購入に充てさせていただきました。トライアスロンは機材スポーツとしての側面があるため、競技者の金銭的負担は大きいです。今回ご支援いただいた物品のおかげで、未来の後輩たちも含めて、その負担を軽減することができます。

これからも日々精進して参りますので、ご支援・ご協力のほどよろしく願いいたします。

## コンピュータクラブ

知識情報工学課程4年 斉藤 恭彦

この度は私たちコンピュータクラブを援助していただき、誠にありがとうございます。

コンピュータクラブでは電子回路やプログラミングなど、その名のとおりコンピュータに関係のあることならば基本的に活動の対象となっています。現在はAndroid班、2Dゲーム班、電子回路班、さらにはXNA班などといった各プロジェクト単位に分かれて活動を行っており、それらの活動の成果を技科大祭や新歓で展示しています。また、新入部員への活動の支援としてプログラミング言語などの勉強会を実施しています。

今回、私たちは数年前まで行っていたサーバを介した活動を復活させることとなり、援助金は学内LANに建てるサーバのホスティングの費用に充てさせていただきました。まずはバージョン管理システムにより各プロジェクトの支援を行うことを目標としています。

皆様の援助によりサーバを再び立ち上げられましたこと、深く感謝を申し上げます。今後ともご支援のほど、よろしくお願い致します。



# 同窓生への支援事業報告

現在同窓会では、同窓生相互の交流促進を目的として、皆様に参加される懇親会／パーティの開催を支援する事業を実施しております（支援内容等の詳細については同窓会ホームページ（<http://www.alumni.tut.jp/>）をご覧ください）。2012年度は、申請にもとづき以下の5件の支援を致しましたので、ご報告申し上げます。

## 高石先生を偲ぶ会

### 〈開催概要〉

実施日：平成 24 年 7 月 21 日  
会 場：ホテルアソシア豊橋  
出席者：17 名（旧物質工学系 卒業・修了生）

### 〈申請者からのコメント〉

1987 年度修了 佐藤 裕久

本学名誉教授である高石哲男先生が平成 22 年 7 月 23 日に御逝去されました。葬儀はご本人の意志により行われずご遺体は東大へ献体され、最終的には北鎌倉にあります浄智寺に取められる予定となっていました。

このような状況のため、OB としては、葬儀はなくご遺体は 1 年以上は戻ってこないこと、昨年 3 月の東日本大震災の影響もあり、「高石先生を偲ぶ会」を延期しておりましたが、平成 24 年 7 月 21 日にホテルアソシア豊橋にて執り行う運びとなりました。

会場では高石先生が亡くなられるまでの様子が報告されたあと、先生との思い出などを語り合い、先生を偲ぶ事ができました。最後に全員で遺影を囲んで記念写真を撮り、高石先生のご冥福をお祈り致しました。



## 開学35周年記念企画 シンポジウム 交流会

### 〈開催概要〉

実施日：平成 24 年 9 月 29 日（土）  
会 場：ホテルアソシア豊橋  
出席者：64 名（旧建設工学系同窓生 49 名、名誉教授 3 名、旧職員 1 名、現役教員 10 名、現役学生 1 名）

### 〈申請者からのコメント〉

1998 年度修了 谷 武

9 月 29 日（土）にホテルアソシア豊橋にて、建築・都市システム学系および建設工学同窓会が連携して開学 35 周年記念シンポジウムを開催しました。当日は 6 名の卒業生の方にバナーを務めて頂き、卒業生、在校生、現役教員、名誉教授など約 130 名が参加の下、技科大教育のこれまでを振り返り、これからの社会に求められる建設技術者像を討論しながら、今後の技科大教育のあり方を議論しました。シンポジウム終了後は交流会を行い、久しぶりに再会した旧友や教員と歓談しながら交流を深めました。



## 第5回塑性接合研究班 OB 会

### 〈開催概要〉

実施日：平成 24 年 10 月 20 日  
会 場：ホテルアソシア豊橋  
出席者：14 名 うち同窓生 12 名  
(旧生産システム工学系, 機械工学系)

### 〈申請者からのコメント〉

2004 年度修了 安部 洋平

機械工学系極限成形システム研究室(旧生産システム工学系塑性加工研究室)の中で金属材料の塑性変形を利用した接合方法を研究・開発しているグループがあります。10 年ほど前から本テーマに取り組み始め、これまでに 20 名弱の学生が卒業・修了していきました。5 年ほど前から年に 1 回程度 OB のメンバーを中心に現役, その他関連のあった OB を集めて加工技術, 業界動向の情報交換を通じて交流しています。



## 第10回システム制御研究室同窓会 (旧工程制御研究室)

### 〈開催概要〉

実施日：平成 24 年 10 月 27 日 (土)  
16時00分～19時00分 受付 15時30分より  
会 場：ウェステージ豊橋 5 階大宴会場シンフォニー  
会 費：8,000 円  
内 容：15:30～16:00 研究紹介  
16:00～17:00 講演会  
17:00～19:00 懇親会  
出席者：90 名 (旧生産システム工学系卒業生 50 名,  
現教員・スタッフ 6 名, 学生 34 名)

### 〈申請者からのコメント〉

2009 年度修了 久保 和也

同窓会にご参加いただきましたみなさま, 本当にありがとうございました。皆様のご協力のおかげで, アクシデントもなく無事開催することができました。次回の第 11 回同窓会は平成 27 年となり, 幹事が学生や教員ではなく, 各年度の担当者による開催となるため, 各年代で参加者が増えると思われます。各位, お誘い合わせの上, 奮ってご参加頂きますよう, よろしくお願いたします。



## 豊橋技術科学大学 関西支部・懇親会

### 〈開催概要〉

実施日：平成 24 年 12 月 1 日

会 場：大阪市中心公会堂レストラン 中之島倶楽部

出席者：24 名（旧建設工学系同窓生 19 名，現役教員 1 名，  
旧教職員 4 名）



### 〈申請者からのコメント〉

1986 年度修了 神田 佳一

去る 12 月 1 日（土）に建設系の関西支部懇親会を昨年と同じ大阪市中心公会堂の中之島倶楽部で開催しました。当日は関西はもとより、東京や岡山から 19 名の卒業生が集まり、山田聖志教授や 4 名の旧教職員の先生方にもお越し頂きました。山田先生のご発声による乾杯の後、美味しい食事を頂きながら、ご家族や仕事場でのお話に始まり、技科大と高専の将来にいたるお話まで、一人一人に近況を語って頂きました。また、3 期の福島重治氏には、プロ顔負けのマジックショーを披露して頂き、多いに盛り上がった会となりました。次回の懇親会は、平成 25 年 11 月 30 日（土）に行う予定です。関西在住の方にかかわらず、皆様のご出席をお待ちしております。





(株)ブライダルは  
豊橋技術科学大学同窓会の  
皆様の「結婚」を応援します。



結婚

## 35年の実績

(株)ブライダルは今まで法人福利厚生、官公庁、各大学会報誌などで、数多くの方々の結婚のお世話をさせて頂いております。少子化問題にも『結婚』という形で社会に貢献できる企業を目指しており、特に豊橋技術科学大学同窓会の皆様には平成17年より「豊橋技術科学大コース」を設け、多くの方にご利用頂いております。この広告を見たとおっしゃってくだされば、会員の皆様はもとより、ご家族の方でも特別に、「結婚」を特典付(登録料50%OFF)にてお世話させていただきます。

豊橋技術科学大コース 登録料 50%OFF

ブライダルコース  
¥220,500 ▶ ¥204,750 etc.

エクセレントコース  
¥378,000 ▶ ¥362,250 etc.

価格は登録料・会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。

株式会社ブライダルの詳しい情報はホームページをご覧ください。  
詳しくは(株)ブライダルと検索してください。

(株)ブライダル

検索

お問い合わせ  
(月曜定休)



0120-415-412

ホームページ  
携帯サイト

<http://www.bridal-vip.co.jp>

<http://www.bridal-vip.net/m/>



右のQRコードにて携帯サイトにアクセスできます。(一部対応しない機種がございます。)



35年の実績  
株式会社

ブライダル

Network / 東京・横浜・湘南・浜松・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

名古屋本社 〒460-0008 名古屋市中区栄3-7-13 コスモ栄ビル9F  
東京本社 〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F  
大阪支社 〒530-0001 大阪市北区梅田1-12-17 梅田スクエアビルディング6F